

第三回館山市議定会例会會議録（第三号）

一、昭和五十五年九月十八日（木曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十六名

一番	神田 守隆	二番	石井 謙
三番	綱島 憲治	四番	横溝 功
五番	福原 勤	七番	古賀 礼四郎
八番	石井 昌治	九番	松下 正己
一番	林 豊	二番	栗原 一雄
三番	近藤 好雄	四番	渡辺 昭夫
五番	伊藤 幸太郎	六番	押元 稔
八番	流山 源次郎	九番	石井 輝久
二〇番	石井 武敏	二一番	吉田 勇治郎
二二番	藤田 益治	二三番	菊井 敏博
二四番	和田 一郎	二五番	五十嵐 昇
二六番	伊賀 多朗	二七番	石井 正
二八番	安澤 徳順	二九番	安西 益男

一、欠席議員 二名

一七番 黒川 平治 三〇番 山口 康

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十五年九月十八日午前十時開議

議案第五十三号 館山市附属機関設置条例の一部を改

日程第一

議案第五十四号

正する条例の制定について

館山市松岡地区土地改良事業分担金徴収条例の制定について

議案第五十五号

館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十六号

市道路線の認定及び廃止について

議案第五十七号

昭和五十五年度館山市一般会計補正予算（第二号）

議案第五十八号

昭和五十五年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算（第一号）

認定第一号

昭和五十四年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和五十四年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和五十四年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和五十四年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和五十四年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第二

日程第三

ついで

認定第七号昭和五十四年度館山市水道事業特別
会計収支決算の認定について

開 議 午前十時二分開議

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十四名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、議案第五十三号乃至議案第五十六号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、順次これを許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 私はすでに通告してございますが、議案の第五十三号、五十四号、五十五号に關しまして少々御質問申し上げます。

五十三号でございますが、これは館山市附屬機關設置条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。御承知のようにこの議案に載っております水産関係——水産業界を見ましても、

二百カイリ時代を迎えまして、新たに水産業の将来というものを抜本的に考え直していかなければならないというような時代に入ってきていると思います。加えまして、海水の汚染や、あるいは漁業後継者の問題等々、年ごとに深刻化しているのが現状であるうと思われまします。館山市としまして、このような山積する水産業関係の諸問題に關しまして、これを単に国や県でやる問題とせず、独自の方針とか具体策とかを講じていくのが望ましいと思わうわけであります。

そうした時期に、今回のように館山市の附屬機關である水産振興審議会がより充実をする方向を、この議案のように示しているわけでございますが、このことは大変時代に先がけて望ましいことであると思いますが、一層この審議会そのものが内容のある、効果的な働きができますように期待しつつ、今回の改正の目的について質問するものであります。すなわち、目的あるいは趣旨、方法、内容についてでございますが、具体的に説明を求めます。

次に、議案の五十四号でございますけれども、五十四号中、私はいわゆる農道災害復旧事業分担金について御質問いたしたいと思わうわけであります。

この事業は、すでに議案の中に説明が載っておりますように、事業が完了している分担金でございます。分担金が滞りなく納入されたということで、事後質問のような形になってきておりますが、私は今後の災害にあたって破損した農道がどのように改善していくのが望ましいかという、たとえばそれは国が直すのか、県が直すのか、市が直すのか、あるいは地元住民が直すべきかというような将来的な見地からこの問題を質問しようとするものでござ

いますので、質問のポイントがそこにありますからお願いいたします。

この分担金の内容について、どのような割合とか内容、そしてその内容がどういう法令に基づいているか等々、お聞きしたいと思うわけであります。

それから、五十五号でございますが、館山市市営住宅の設置並びに管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、これは公営住宅法及びその施行令の一部改正に基づいて順応して出てきている改正案だというふうに思うわけであります。男が六十歳以上、女が五十歳以上の者、または身体障害者等においても、単身世帯であっても入居資格を有する者として取り扱おうというものであります。当市の場合、いわゆる市営住宅に入居するということが大変住民にとっては狭き門になっているわけであります。申し込みをしてもなかなか入居できないあきらめて次は申し込みをやめたというような切実な話を耳にするわけであります。こうした部屋不足の現状の中で今回の改正が行われようとしているわけでございます。

私は今回の改正そのものは賛成であります。すなわち老人とか身体障害者が単身でも入居できるということは、福祉という観点からしてそのワクが拡大していくことに私は解釈をするものであります。ただ、当市の実情を見まして、今回の改正に対応していくという具体的なものがないのかということなんです。そういう部屋不足の実情を踏まえまして、そのへんのことがらをどのように考えておられるか御質問するものでございます。

以上、三点御質問いたします。なお、答弁によりまして再質問

いたします。よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

議案第五十三号水産振興審議会の件でございますが、水産振興審議会の役割、目的につきましては、「水産振興計画を審議し、これらに関する必要な調査を行い市長に答申又は建議すること」を目的とするものでございます。

今回、二名を加えた水産振興審議会の内容につきましては、館山市が地域沿岸漁業構造改善地域に本年度指定されまして、五十五年度が計画年度、五十六年度から五十九年度の四年間で本事業が実施されるわけでございます。この事業実施にあたっては事業実施要領、すなわち農林水産事務次官依命通達でございますけれども、この実施要領によりまして、事業の推進母体体制として、計画の作成、事業の実施等、地域の沿岸漁業の構造改善を適正かつ円滑に推進するため、関係漁業団体及び関係金融機関の役員、水産業改良普及職員、学識経験を有する者等を構成員とする協議会を開催するものとする、ということになっているわけであります。これによりまして、従来の水産振興審議会に新たに金融機関、改良普及職員の二人を加えて十人で審議していただくことにしたいということでございます。

この構造改善事業は、総事業費二億四千万円でございまして、その内容は、増養殖場の造成改良事業、すなわち築磯事業でございますが、あるいはまた漁業近代化施設整備事業、漁船漁業用の作業保管施設、すなわち漁具倉庫でございます。それから漁船保

全修理施設、さらにまた流通等改善施設整備事業、すなわち水産物の荷さばき施設等でございます。さらにまた漁村環境施設整備事業、たとえば漁村センターとか情報連絡施設等でございます。こうした事業を行いますので、館山市の漁業の振興のためには非常に役立つものだと考えております。大いに効果が期待されるものと思います。

次に、議案第五十四号農道の災害復旧事業分担金についての御質問でございますが、農業施設災害の復旧事業につきましては、異常なる天然現象によって災害を受けた施設等を原形に復することとを目的に国庫補助の対象となるわけでございます。

御質問の内容につきましては、青木町も温井もいずれも国庫補助が七六・五％、市費が一〇％、地元分担金一三・五％となっているわけでございます。こうした災害に対して、国、県、市、地域住民のいずれかが復旧すべきかということにつきましては、特定地域の農家の利用が主な農道については、国、市及び利用度の高い地域住民も一部を分担して復旧するのが妥当だというふうに考えております。

なお、御参考までに申し上げますと、青木町の場合は受益戸数が二十二戸、受益面積四・二ヘクタール、総事業費が百九十万五千円でございます。そのうち国庫補助が百四十五万七千円、市費が十九万円、地元の分担金が二十五万八千円でございます。温井の場合は受益戸数十五戸、受益面積一・六ヘクタール、総事業費が二十五万六千円、国庫補助が十九万五千円、市費が二万五千円分担金が三万六千円でございます。

議案第五十五号の入居資格についてでございますが、法の改正

に伴いまして入居資格が変わったわけでございます。入居資格は、以下申し上げますが、ただし身体上または精神上著しい欠陥があるため常時介護を必要とする者は除かれております。

その資格第一点は、男は六十歳以上の者、女子については五十歳以上の者。第二点は、身体障害者福祉法に基づき障害者手帳を有する者で、障害の程度が一級から四級までの者。第三点、戦傷病者特別援護法に基づき戦傷病者手帳を有する者で、障害の程度が恩給法別表一号表の二の特別項症から第六項症までの者と一号表の三の第一款症の者。第四は、原子爆弾被爆者の医療等に関する法律による厚生大臣の認定を受けている者。五、生活保護法の規定による被保護者。第六、海外からの引揚者で、本邦に引き揚げた日から起算して五年を経過していない者ということになっております。

以上、答弁を終わります。

——ただいまの第五十五号の御質問に関しまして、追加説明をいたしたいと思ひます。

単身者の入居を認める公営住宅の規格につきましては、一K、一DK及び二K程度の住宅、または床面積が二十九平方メートル程度以下のものということになっております。なお、館山市における該当住宅は、大賀住宅に二Kが六十一戸、これは全戸でございます。笠名住宅に二K、三十戸でございます、これは九十戸のうち三十戸でございます。合計いたしまして九十一戸でございます。

以上、答弁を終わります。

〇二〇番（石井武敏君） 五十三号でございますが、ただいま御説明があったわけでございますけれども、館山市が特別なそういうい

た水産関係の、いま御答弁がありましたような築磯事業であるとか、作業場の改善であるとか、漁船センターですか、御答弁が返ってきたわけでございますが、そういった水産関係の事業を充実するようにという指定を受けたということですが、これは千葉県などの範囲まで指定を受けたのか。館山が特別そういう指定を受けたのか教えていただきたいと思っています。

私は、この指定があつて、事務次官通達に基づいて、今回の改正が行われているというように受け取るものでございますが、私は事務次官通達がなくてもやはりそういった趣旨の将来的なものを検討していくということは非常に大事なことであるというふうに思いますので、そういった取り組みは事務次官通達がなくてもやるべきではないかというふうに思うわけであります。

この事業が四年間でなされるということでございますが、四年後はこの体制は解散されるんですか。この附属機関としての審議会というのは、四年後はどうなるんでしょうか。私は、この協議会の重要性をかんがみて御質問申し上げているわけでございますので、そのへんを御答弁願いたいと思います。

それから、漁船センターということでございますが、何箇所市内に設置をする予定でいらっしゃるのか御説明を求めます。

それから、次の議案第五十四号でございますが、これはいままの御説明ですと、青木も温井も——こまかな説明がございまして、金額的な説明もありましたので、そのへんの青木も温井も非常に金額的には少ないということは理解できます。そのくらの金額であれば受益者負担という考え方から当然地域住民が出してもいいのではないかというように当局がお考えになる考え方もわかり

ます。

しかし、これは災害の規模が小さかったから額が小さかったわけです。全体の額の二三・五％、全体の額が青木の場合百九十万五千元、温井の場合は二十五万六千元、全体の額が少ないわけですから国が七六・五％、市が一〇％、地元が一三・五％、金額的にすればわずかなものであるというふうに受けとめられるわけですが、しかしこれは小さな災害だった場合こうなるわけです。

しかし、災害の規模というのはいつも小さい災害ばかりではないわけです。ですから、たとえばこれは大きな災害で多大な農道の破損という事態になったときに、このような考え方でいいのかどうなのかという将来的なことを私はお尋ねしているわけでございます。

いままではこれでよかったわけです。いままでの災害は被害が少なかったからいいわけです。しかしいままで少なかったからといって将来これでいいかというと、そういうふうにはいかなんではないか。特に防災という考え方は大きく取り上げられようとしている時代に入ってきておりますので、そういった時代背景から見ましても、割合から見ましても市が一〇％地元が一三・五％で市より地元の方が多くなっている、非常にわずかな額であります。が、そのところを将来的に見て妥当であるかどうかという質問をしているわけでございます。お答えの中には、農家の利用度が非常に高い、だから受益者負担は当然であるというような考え方がありのように思います。

農道に關しましては、再質問としては、いま申し上げました災害の規模によっても同じ分担金なのかどうかをあえて御質問した

いと思います。御答弁をお願いいたします。

それから、五十五号でございますが、これもこまかく説明をいたしまして大変ありがたく思っております。いわゆる単身世帯の入る部屋が大賀で六十一、笠名で三十、合計九十一戸そういった部屋があるということまで御答弁を受けたわけでございます。

私がここでお聞きしていますのは、本条例というのは館山が考えた条例というのではないということです。館山が考えた条例ではなくて、いわば上からきた条例なんです。だから上から来たものに相呼応して館山市もそうしようというんだから、館山市の現状というものが、たとえば九十一戸あるうちに何部屋空いているのかどうか。私は、この条例ができると同時に対象者は相当数いるように感じるわけなんですけれども、私の感じだけだと質疑の根拠が薄くなるので、どの程度対象数として数字的にあらわれてきているか御説明願いたいと思います。その対象数と現在何部屋空いているかという部屋数の実情というものをかみ合わせるときに、この改正案が生かされるかどうかということになると思います。その点御質問いたします。

○経済部長（山田俊康君） 議案第五十三号の関係でございますが、館山市が特別に指定を受けたのかどうなのかということでございますけれども、全県下的なものを持ち合わせておりませんで申し訳けございませんが、安房郡市におきましては館山市と鴨川が今回指定になっております。

四年後はどうなるのかというお尋ねでございますが、いままでも水産振興審議会は重要な水産問題についてずっと審議をお願いしてございます。今回、この地域沿岸漁業構造改善事業を実施す

るにあたりまして、特に実施要領等が示されまして、関係金融機関の役員、それから水産業改良普及職員を入れて審議しなさいということでありましたので、今回お願いした次第です。当然四年後には従前と同じ水産振興審議会ということになると思います。六十年三月三十一日までということであります。

それから、漁村センターを何箇所つくるかということでございますが、先ほど市長から説明申し上げましたように、いろんな施設を現在館山市内にございますそれぞれの漁業協同組合からの要望等を取りまして、この水産振興審議会に諮って、また県にあげて、国にもあげていくものでございます。現在、要望がありますものとしては、荷さばき所関係について、少し広めにして漁村センター的にも使いたいというような意向も一部の組合にあるようですけれども、それは要望としては、現在のところ荷さばき施設ということでは、三組合から要望が出ております。

それから、過大な農道の破損の場合どうかということでございますけれども、五十四号の関係、現在現状復旧をしております法律は、農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助暫定措置に関する法律という法律によって、災害が起きた場合災害復旧をしているわけでありまして、御指摘の過大な農道の破損、要するに大災害というようになりますと、これはいろいろございますけれども、たとえば災害救助法が適用されるような災害になりますと、また別の負担率ということになって、国の負担も県の負担も出てくるということになるかと思えます。

それから、入居資格についてでございますけれども、対象数はいくつあるか、単身者の要望というものを実は把握してござ

いません。今回、法律の改正によりまして条例もこのように改正をお願ひする次第ですけれども、今後入居申し込みを受けてそれで対処してまいりたい、このように考えております。

○二〇番（石井武敏君） 水産関係でございますが、私は水産審議会に關しまして非常な期待を寄せているものでありまして、御質問するわけでございます。

さまざまな要望が各地域から出ている。たとえば荷さばき場に關しましては三組合から出ている等々御答弁がございました。これらは県に吸い上げられ、国にいつて最終的な計画ができるというような、地域でまとめて県にいつて、国にいつて、それでできるといふ答弁ですが、具体的な計画になるのはいつになるのか。四年間のうちにこの事業をやるうとするわけですから、四年間という期限がついてゐるわけでございます。ですから、何年ごろになつたらこと、こと、ここを直すんだということが明確になるのかという時期的なことをお尋ねするわけでございます。

それから、四年たちますと、審議会は委員数が減つて変わつてくるわけであります。いわゆる今回改正でふえます人たちが、たとえば水産業改良普及職員、こういう方々の数が減つてくるわけでございますが、實際審議会を運営していくのにどうなのかという問題なんです。

念のためにお聞きいたしますが、いままであつた水産審議会というのは年に何回ぐらい会合をお開きになつていろいろ審議をされておりましたか。いままでの経過を踏まえてお答え願ひしたいと思います。

それから、農道の災害でございますが、これは規模が変わつて

くれば、大災害の場合は災害救助法が適用されるということでございます。災害救助法の場合は地元負担金がないのですか、どうですか。

それから、もう一点。農道といひしても、いま時代の流れとして、いわゆる農地を埋め立てて造成して住宅地にしていく傾向が非常に強いわけでございます。面積的にも広がつてきている時代に入つています。といひますのは、農道といつても、農道であるけれども住民がふえて、住宅がふえてくることによりまして、農道というよりも生活道路になつてきてゐるところがふえているんじゃないかと思つてゐます。しかし、生活道路として利用していても市道としての昇格をさせるための条件がいろいろあるわけでございますから、条件がそろわないと市道に昇格はできない。いづまでも農道であるが使つてゐるのは生活道路、こういう地域を見かけるわけです。そうした地域がこれからふえてくるという予想のもとにこの質問をしてゐるわけでございます。

ですから、いままでのこのいつた分担当の考え方というのは、いままでよかつたからずっとこのままでいくんだという考え方ははいけないんではないかといふことを指摘してゐるわけです。こういった場合、市道に昇格できない道路について、いつまでも農道のままだと思つてゐるんです。それで災害にあつて、農道のときには地元が負担する、市道なら負担金なしですよ。こういう格差がつけられるということはそれでいいのかどうかという、そのへんの見解を明らかにしていただきたいと思ひます。

○経済部長（山田俊康君） 今回の地域沿岸漁業構造改善事業の計画は、先ほど市長から申し上げましたように、本年度が計画年度

になっております。本年度も年度末にならないうちに決定するとういうふうに考えております。

水産振興審議会が何回開かれたか、いま手もとに資料がございませんが……。聞いておりますところによりますと、年に少ないときは一回、なお必要に応じて二回、三回と開いているというところでございます。

それから、災害救助法——激甚災害のあった場合の原状復旧に地元負担がないかどうかという御質問でございますけれども、いままでそういうことがございませんでしたので、データの持つておりませんが、激甚災害になりますと国庫補助も県費補助も——いまの農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助暫定措置に関する法律で実施する場合には国庫補助で、県費補助はございませんけれども、そういうものも出てくるというふうに聞いております。

それから、生活道路として使っている農道、市道との区分というところでございますけれども、現実の問題として、現在のところではどこにその線を引くかいろいろ問題点も多いと思いますので、今後十分検討してまいりたいと考えております。

○二〇番（石井武敏君） 御答弁受けたわけでございますが、答弁のデータのものが多少不足をしているようでございますので、質疑としてはこのへんで打ち切りたいと思いますが、なお要望として前向きに農道の災害にあったところの補修等、将来的なものを踏まえて御検討していただきたいと思うわけでございます。なお、市営住宅の第五十五号につきまして、一つだけ確認しておきたいんですが、説明資料に基づいて質問いたしますけれども、

いままでは入居者の選考の資格が、「住宅に困窮する度合に従って入居者を選考する」という、非常に明確な選考の基準であったわけです。住宅に困っている人から入れるんだということでございます。今度改正される文章を見ますと、「住宅に困窮する実情に応じ適切な規模、設備又は間取りの市営住宅に入居することができるよう配慮し入居者を選考する」、こういうふうに文章的に変わってきているんですが、これも公営住宅法の改正からきている改正ですか。あるいは地元でいままで入居者が望んでいる部屋と市が考えている、入居させる部屋と食い違いが多くあった、そういうことがあったんでこういうような文章になってきているんでしょうか。そういう点を明らかにしておきたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） お答えいたします。

今回の改正は、あくまでも公営住宅法の改正に伴うものでございます。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 通告しました諸点について質問いたします。

第五十三号については、いまの石井議員の質問と重複しますので省略いたします。

第五十四号の松岡地区土地改良事業分担金徴収条例の制定についてであります。議案の説明資料の一〇ページによりますと、松岡地区の水田整備事業については、補助事業の対象外部分のあることがわれますが、この補助事業の対象外になったというのはどういう理由なのか説明を願いたいと思います。

第五十五号の館山市市営住宅の設置及び管理についてであります。この点については今後間口を広げること、單身世帯あるいは老人世帯、身体障害者の世帯に対しても入居資格を有するということと扱うということとあります。これは先ほどからの質問答弁の中で出てきているわけですが、今後の考え方として、国の法改正に基づく条例改正だということでありすけれども、さらに積極的に市営住宅の入居対象について、間口を広げたわけですから、具体的な拡充を進めていく計画がおりなのか。あるいは計画とはいかないまでもお考えなのかどうか。そこらへんのお話を伺いたいわけでありす。

次に、議案第五十六号市道路線の認定及び廃止についてであります。六ページの説明資料によりますと、県道館山長尾線から東虹苑の造成地を抜ける市道と並行して市道豊房二九号線が載っているわけでありす。この市道は県道から神余畑の部落まででそこから先は林道になっていたというふうに思うわけでありす。そしてその林道が航空標識所標識施設ですか、そこからさらに豊房育成牧場のほうに抜けているというふうに思うわけでありす。が、この二九号線は現在大雨のたびに崩れ落る大変に危険な道路であるために、神余畑の部落からは東虹苑造成地に至る林道を生活道路として整備してもらいたいということで、陳情が市長に出されているわけでありす。

今回、東虹苑から航空標識所標識施設に至るこれまで林道だった部分が市道になるというわけですから、神余畑から東虹苑に至るわずかの部分が林道として残ってしまうことになるかと思ひます。神余畑の部落は狭くて危険な二九号線ではなくて目と

鼻の先にまでできている広く整備された今回の認定道路までぜひつなげたいというのは当然のことだろうと思ひます。ことし三月の広報にもこうした陳情が出されて、それに対して市当局は舗装を実施するために県とよく話し合いますというような答弁があるわけでございます。こうした道路の現況が変わってきているわけで、神余畑からの住民の要望に対してどのようにお考えになっているのかお聞かせ願ひたいと思ひます。

以上、答弁によって再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第五十四号の松岡地区土地改良事業の対象外の問題でございます。二ヘクタールで県知事に事業認可申請を提出し、計画どおり認可される見込みでございます。したがって、事業は計画どおり実施できるわけでございますけれども、補助対象として認められた事業費が四千五百万円でありす。県においては県下の各市町村の実施希望をできるだけ多く採択するように配慮しております。その関係で全計画を認定が得られなかったわけでございます。市といたしましては補助事業にならなかった事業に対しては三〇%の補助をいたすことにいたしております。補助対象事業費の増額については今後も県に対して要望を続けていきたいと思ひます。議案第五十五号の市営住宅の入居者の問題でございますけれども、今回法が改正になりました。従来入居対象にならなかった方々が入居対象になるということになりましたので、すなわち対象範囲を広げましたので、市といたしましても対象範囲を広げたわ

けてございますが、しかし現在そうした対象数がどれくらいあるかという実態の把握ができておりませんので、今後その実態を把握いたしました上で考えたいと思います。

議案第五十六号の、御指摘の林道が残るわけでございますが、この点につきましては今後実情を検討いたしました上で考えたいと思います。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） 松岡地区の土地改良事業の問題ですが、これについては全県的な検討の中で対象外にならざるを得なかった、こういうお話ですけれども、今後とも要望していくということですから、ぜひともそういうことで要望を県にしていくということは大事なことでないかというふうに思います。同時に水岡地区から坂足地区が当初事業の実施計画からはずされたというふうになっておるわけで、かなり大きく計画が狂ってきたわけですから、これは単なる見込み違いにしては大き過ぎるものではないか。そこらについて何か特別な事情があるのではないか。財政上の事情なり、そういう何かがあるのではないかと思います。そこらへんについて御説明願いたいというふうに思います。

それから、市営住宅の問題については、実態を把握した上で今後検討していくことですから、十分実態の把握に努めていただきたいということをお願いしたいと思います。

それから、市道路線の認定及び廃止の問題ですが、林道になっているわけですから、しかもきわめて距離的にも短い林道になるわけで、神余畑の部落からほんのわずかの部分だけが宙に浮いたということになるわけです。こういう林道というのは本来

の趣旨からいってあり得るかどうかお聞かせ願いたいと思うわけであります。

この問題については、実情をよく把握した上で、林道のまま舗装するのか、あるいは市道に編入していくのか、そういう点が考えられるだろうと思いますが、そこらのことも含めて十分検討していただきたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 第一点の土地改良に關します問題でございますけれども、一つには水田利用再編対策等の関係もございまして、国、県が考えておりましたよりも多くの市町村から大量に要望が出たというようなことから、採択が遅れているということとでございます。非常に、休耕している間にそれでは補助をいただいて事業をやるうというのが県下各地から大量に出たというようなことでございます。

それから、林道の関係でございますけれども、林道につきましては、付近の林業、木材搬出のための道路というのが主たる目的でございます。先ほど市長から答弁申し上げましたように実情を十分に検討いたしまして今後対処してまいりたい、こういうふうにかえております。

○一番（神田守隆君） 林道ですけれども、林道は県の管轄であるうかと思うんですが、県のほうとこの問題について話し合いをしたということがあれば、その内容について、どういうようになっているかお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 今回のこの林道を市道に編入するにあたりましては、これを管理しております南部林業事務所と話し合っておりますが、ただいま提起された問題についても今後南部林

業とも詰めてまいりたい、このように考えております。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

次、一八番議員流山源次郎君。御登壇願います。

（一八番議員流山源次郎君登壇）

○一八番（流山源次郎君） ちょうど私がこれから質問しようという二点は、同僚石井議員のほうから先ほど質問が出ておりまして、また台風十六号が近づいてきていて、いつまでも審議している時間ではございませんが、せっかく質問書を提出いたしましたので、市長としてもそれだけの用意をしておっただろうと思いますので、私がここで質問しないと市長もサービスマンしてしゃべってくれないと思いますので、石井議員、神田議員と重複する問題があると思いますが、関連質問といたしまして、ただいまから次の質問を申し上げます。

議案第五十三号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について、次の二点について質問いたします。

一つ。新沿岸漁業構造改善事業促進対策要綱の具体的な内容を説明してください。

二点目といたしまして、水産振興に久しぶりに画期的な条文が入ったことに対して、漁業に携わる者の一員として非常に喜ばしいことと思います。しかしながら、いままでの水産振興審議会を見ますと、年平均一回も開催されるということではなく、三年に一回とか四年に二回とかという水産振興審議会でございますが、ここに新たに水産振興審議会に金融機関関係、水産業改良普及職員の二名の委員を入れて十名の委員構成とする条例改正は、ただ国、県からの天下りであり、おさなりのなにおいがするが、

本格的審議活動が開始されるのかどうか御説明をお願いいたします。

次に、議案第五十五号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてお聞きいたします。

男六十歳、女五十歳以上の者、または身体障害者等、単身入居資格を有する者として取り扱おうとする、福祉施策の上からも大なる躍進に、長い間の実現を一日千秋の思いで待っていた方々は館山市に非常に多いと思います。非常に喜ばしいことでございます。私どももろ手を挙げて賛成するものであります。

しかしながら、ただ心配なのは、条例に書き加えるだけの、天降り式の線ではないかという危惧がどうしても抜けさらないのであります。現実的には市民入居希望者の差別主義に陥るものはないかという危惧がありますが、この点について執行部としてのお考えをお聞かせ願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 流山議員の御質問にお答えをいたします。水産振興審議会というのは、先ほども御答弁いたしましたように従来もあったわけでございまして、それに今回新沿構を実施するにあたりまして、地域沿岸漁業構造改善事業実施要領というものに基づきまして、金融機関の役職員、それから水産業改良普及職員を二名を入っていたということをお願いしたい、こういうことでございます。従来も少なくとも年に一回は開催をいたしていたわけでございますが、決して二年に一回、三年に一回という事実はございません。さらに必要があれば委員の皆さま方に集まっていたらいて御審議を願ったわけでございます。

今回は、特に、いわゆる新沿構の計画を推進するための機関でございまして、より活発に開催をし、委員の皆さま方の御意見を承ることをなろうと思っております。

それから、五十五号につきましては、意味がちよっと聞き取れませんでした。差別主義という言葉をお使いになったような気がしますが、この条例改正によりまして、法の趣旨に従って厳正に実施をしたいと思っております。

○一八番（流山源次郎君） 水産振興審議会は、いま市長さんが説明されたように、水産関係につきまして大きなテーマがあった場合の審議ということはわかっておりますが、私も議会に当選してまいりましてから九年近く水産審議会の一員といたしまして今日まできたわけでございます。水産振興審議会としての審議は先ほど私が述べたとおりの日数でございまして、年に一回とまでは開かれていません。ただ、市長さん混同されたのは、水産振興審議会以外に館山市では各協同組合長を招集したり、漁業関係の役員を招集した会議がたびたび市役所で行われております。それとの混同ではないかと思っております。

今度新しい構造改善事業の一端として、審議委員をふやしてやるという事で結構なことでありますが、ただいままでみたいに充足はいいんですがそのままするべったりという、審議会を開かれないということになるのではないかと。たまたまある館山市の水産関係の有力な方にこの前ひやかされたのは、「君なんかは数少ない水産代表で館山市に出ていながら、館山市で行われる水産関係の審議には一日も顔を見せたことがないんじゃないか」というようなことを言われて、私なんかは招集されて出ないというこ

とじゃなくて、そういう出席するところがないんですが、その人なんかにはすれば議員としてそういうところに顔を出してないんじゃないかということでは何か言われておるところでございすけれども、できたら私どもとしてはそういう組合長会議とか、同じ水産のテーマということだと思っております。それから昨日の通告質問にも横溝議員から出ました放射能投棄の件でございすですが、こういう問題は一年、一年に水産関係でも大きなテーマ、こういうものは水産審議会を開くつもりだったから一年に二回や三回は開くテーマはあると思いますが、この点につきまして市執行部としてはどういうお考えでございすか、お聞かせ願います。

○経済部長（山田俊康君） 先ほど市長から答弁申し上げましたように、今回は地域沿岸漁業構造改善事業の本年度は少なくとも計画年度でございすので、数多く審議していただかなければならないというふうに考えております。

なお、御指摘のように重要な事業等あります場合には、随時今後開催してまいりたい、このように考えております。

○一八番（流山源次郎君） 水産振興のほうはわかりました。活発に水産振興のために会議の場をつくっていただきたいことをお願いいたします。

それから、入居者の関係でございすですが、この件についてお聞きしたいのは、先ほど私が質問の中で差別待遇ができるのではないかとということをお申し述べたのでございすですが、館山市にある住宅は館山市民が利用する、平等に利用しなければいかぬわけでございす。考えてみますれば、那古船形地区の住民は、もうすでにあの住宅にはほとんど入れない。ということは、先ほどの説明

でも一DK、二DKの件で大賀、笠名と限定された線がござい
ますので、そこに船形地区の人は自分の職業、また身体障害者の人
は自分がよく動く環境から、わざわざ笠名、大
賀に出かける、あそこから通うというのもう不可能であり、す
でにこれだけの件で市民として那古船形の人は不平等が出ている
ということでございます。

それは抜きにしても、先ほどの入居資格に對しまして、館山市
には毎月入居の申し込み者が多いんです。現在でも満足に入れな
い入居者があるというのに、単身ということ、また身体障害者と
いうことになってきた場合に、ますます単身者、身体障害者が不
利になるのではないかと思います。いままでの入居選考基準にな
っておりまして家族が多いほど、疊数が少ないほど、収入の上下
とか点数制になっております。こうなった場合、同じ資格を持っ
ていても、片っぱは複數、片っぱは単數、こういった場合にはど
ちらを優先していくんですか。

○経済部長（山田俊康君） お答えをいたします。

これは、あくまでも入居選考委員会というのが設けられており
ますので、委員会の決定を、市はそれを尊重して決定してまいり
たい、このように考えております。どちらを優先するかというこ
とはあらかじめ考えることはなしに、入居選考委員会の決定によ
りたいと考えております。

○一八番（流山源次郎君） 経済部長さんに反論するようで申しわ
けないんですが、入居資格というのは——経済部長よく知ってい
ると思うんですよ。家族が多くて部屋が狭い、疊の数が一疊につ
いて一人とか二人とかならそういう人を優先させちゃいんですよ。

単身の人が収入は同じだ、こっちは奥さんと子供と合わせて収入
は同じだということであれば、これは審議会の人間だといったっ
て、家族が多いということなら、館山市に住んでいる人だったら
二人の人に——いままでの審議会だったらそうなりますよ。そこ
で私が聞きたいというのは、市の配慮によって、せっかく条文を
つくったんだから、身体障害者の人とか単身の老人でどうしても
困っている人たちに何とか温情のある制度をお願いしたいんです。
単身者入れます、身体障害者入れますといっても、現実にはある
地区には全然だめだ、入ろうといってもその人はオミットとなっ
たということで、ここに温情を加える考えはないか市長さんにお
伺いいたします。

○市長（半澤良一君） 御質問の御趣旨はよくわかります。先ほど
も御答弁申し上げましたように、「その趣旨に従って」と申し上
げたのは、こういう独居の方々あるいは身体障害者等の方々を入
れようとする、そういう法の趣旨に従って厳正に行いたいと申し
上げたわけでございます。今後の選考委員会にあたっては、そう
いう趣旨を十分徹底できるような方向で選考いたしたいと考えて
おります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一八番議員君の質疑を終わります。
以上で通告者による質疑を終ります。

通告をしない議員諸君で御質疑はございませんか。——御質疑
なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員 会 付 託

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となっておりまして議案第五

十三号乃至議案第五十六号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、議案第五十七号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算及び議案第五十八号昭和五十五年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（五十嵐 昇君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君。御登壇願います。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 補正予算の中で五点ほど御質問いたしたいと思ひます。

第一点は、一三ページの第三款民生費の中の二〇節母子家庭医療費給付扶助費でございます。これに關しましては、この扶助費は国、県の施策に相呼応して市が始めようとする事業でございます。館山市には実際のどのくらいの対象世帯があるかどうか、これを御質問するものでございます。

それから、次に一四ページの四目一五節衛生センターの建設費の中の井戸浄水設備工事請負費、あるいは搬入道路建設に伴う空洞充填工事請負費、これについて質問するものでございますが、衛生センターのような大きな規模の施設建設というものは、事前にいろいろな角度から調査されているのが当然ではないかというよう

に考えるわけですが、工事に取リかかりましてからあれこれいろいろな問題が検討しなければならぬ、いわゆるそういう問題が出てくるわけでございますので、建設の際の事前調査のあり方について質問したいわけでございます。こういった問題については事前に調査ができなかったのかどうなのか、それを御質問いたします。

それから、同じく一四ページの六款農林水産業費一三節の中の松岡地区の埋蔵文化財発掘調査委託料でございますが、文化財が発掘できるかもしれないという期待に胸をときめかしながら質問しているわけでございますけれども、現在の発掘調査に至るまでの経過について御説明をお願いいたします。

また、この文化財についての学術的な見地からどのような価値があるか非常に興味があるところでございますので、どのような見解をお持ちでしょうか、お伺いいたします。

四点目は、八款土木費の中の五項都市計画費の一三節委託料でございます。館山駅周辺市街地整備調査委託料でございますが、これはどのように館山駅周辺を發展させていこうかという都市計画に基づいて、いわゆる都市計画を立てるための基礎調査として行われようとするものでありますが、この事業の方法についてどのようにして調査していくのか、方法について具体的に説明を求めます。

最後に、五点目でございますが、一九ページ一五節の工事請負費でございます。造形作品の設置工事請負費でございます。造形作品については、造形作品に対する市当局の傾倒というものが非常に強くあらわれているわけでございます。何か盛んに造形作品

に傾倒していく特別な理由があったらお聞かせ願いたいと思うわけでございます。

また、この造形作品についてどのようなものなのか、具体的な説明を求めます。

以上、五点について御質問申し上げます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

母子家庭医療給付扶助費の件につきまして、その対象者は何世帯ぐらいかということでございますが、一応対象母子世帯は三百世帯でございます。

第二点、衛生センターの井戸浄水設備について及び搬入道路建設について、事前に調査ができないものかどうかということでございます。井戸水の水質につきましては、事前に予測することとがきわめて困難なことでございまして、やはりさく井後の水質検査の結果により対策を講じていくことになるかと考えます。

また、空洞充填工事については、道路建設工事に直接関係する浅い空洞についての対策は講じてあるわけでございますが、建設地の一部路床下約五メートルから十メートルくらいの位置にある空洞について、将来の安全を期するために充填工事を実施しようとするものでございます。

松岡地区の埋蔵文化財についての学術的価値はどう評価しているかという御質問でございますが、松岡地区の市営土地改良事業を実施するにあたりまして県教育委員会の行政指導を受けまして、埋蔵文化財の有無についての調査を依頼した結果、畑に土師器の

散布が見られました。そこで、今回遺跡の確認のために文化財保護法第五十七条の三に基づき調査会を結成した上で調査を行うことになったわけでございます。確認調査の結果、遺跡等が発掘された場合には、全体計画について市担当課及び県教育委員会と協議をいたしまして調整を図ることになるわけでございます。したがって学術的価値の評価等についてはその段階で行うことになるわけでございます。

次に、館山駅周辺市街地整備調査委託料でございますが、この目的は、整備の必要性を検討するとともに、整備課題の設定と整備前提条件の整理を行うためのものでございます。委託先についてはしかるべき建設コンサルタントを予定しておるわけでございます。

調査区域は約六十ヘクタールでございまして、土地利用等の実態を各種資料の収集、閲覧や現地踏査により把握した上で、市街地の環境を評価し、その地区の広域的な整備に関する問題点と課題を洗い出すことを内容としております。そして基本構想及び計画を策定するための前提となる地価や権利概況等の条件を整理いたします。さらに、再開発事業に関しまして事業手法の検討や事業計画モデルの作成を行っていきたいと考えているわけでございます。

造形作品についての御質問でございましたが、この件については、昨年度市の文化的景観の構成を図りまして造形作品三点を購入いたしました。中央公園に二点、市役所ロビーに一点の設置を行ったわけでございますが、本年度その意図をさらに推進いたします。市民の心豊かな生活と発展的な町づくりを寄与するため

の文化環境構成ということについての施策を立てまして、長期的展望をもって充足していきたいと考えております。

作品の内容は、芸大の卒業制作の中から選びたいと考えております。

予算としては、購入費三百万円、工事費等で五十万円を見込み、場所としては市内の公園、公民館、学校等、公共の施設に逐次設置の計画を立てております。

なお、三百万円のうち、百五十万円は国際ロータリー第二七九地区の年次大会記念事業の一環としていただいた寄付をもって充てたいと考えておるわけでございます。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁をいただいたわけでございますが、なお何点か御質問いたしたいと思っております。母子家庭の医療給付扶助費でございますが、対象世帯が三百世帯というふうに御答弁がありました。非常にすぐれている施策であると思っておりますので、なおかつ質問いたしたいと思っております。これは所得制限がありますか、どうでしょうか。あるとすれば、どのくらいまでありますか。また所得制限そのほかの制約、制限がありますか。その点を明らかにしていただきたいと思っております。

二番目の、衛生センターの井戸の浄水設備でございますが、地下から汲み上げていくものですから、事前に調査が困難であるという御答弁ですが、確かにそうかもしれません。それではこれから実際に設置しようとする機械の規模はどのくらいの規模のものなんでしょうか。

それから、搬入道路につきましては、御答弁では将来の安全のためにやるということですが、この際いろいろな将来の

安全のためにここはこうした方がいいというような衛生センター関係のものがあると思えますけれども、少し拡大をして御質問しているわけでございますが、そういったことがらに対してはどういうことなんでしょうか。この搬入道路だけ将来の安全のために充填していけばいいのか、また途中からそういったものが出るのか、そのへんどうでしょうか。

それから、松岡地区の埋蔵文化財についてでございますが、県の教育委員会と連携を保ちながら、いままでも発見された、土師器の散布が見られたことによって、文化財保護法第五十七条の三によりこれからやるんだということでございますが、あくまでも発掘調査を委託するわけでございますので——そうだろうと思いますが、どういう団体にこれを委託をなさるんですか。その団体がいままでも発掘に関していろいろな実績があるとか、権威のあるものであるとか、信頼のできるものであるのかどうか。そういった委託する団体によって発掘の過程が違ってくるんではないかと思えますので質問しているわけでございます。どういう団体に委託なさろうとしているんでしょうか。

それから、次の館山駅周辺の市街地の整備調査委託料でございます。これもやはり委託料でございましてどっかに委託するわけでございます。これはしかるべきところに委託をするということでございますが、委託をする場合のコンサルタントとしてはどういう会社を考えられますか。

また、この種の調査というのは、最近いろんな角度から何か将来的な計画をどうしたらいいかというところすぐ調査というふうに手順が決まっておるようでございますが、かつて観光都市としてど

のように発展すべきかという調査をなさった経過があると思います。その際館山駅を含めて観光的な見地からその調査をされたと思います。そういう記憶が私にあります。そういうふうにはらばらにいろんなものを調査されていくというような感じを受けますので、何か一貫した総合的なものがあっていいんではないだろうか。館山市全体のいろんな面から、観光とか、商業とか、産業とか、そういった面から総合的な調査というものが望ましいんではないか。部分的な調査というのは関連性がないんじゃないか。またむだが多いんではないかと思しますので、そのへんをもう少し明確にしていきたいと思います。

それから、造形作品につきましては、そうした芸術的な傾倒という一つの傾向は望ましいと思いますし、結構と思います。ただ芸大の卒業生から作家を選ぶというんですが、これは市長さんがお選びになるんですか。

以上、御質問いたします。

○民生部長（鈴木 力君） まず第一点の御質問でございますけれども、母子家庭の医療費の助成金の支給でございますけれども、現在これに対する要綱案が制定されておるわけでございますが、その要綱によりますと、所得制限といたしましては、いわゆる所得税の非課税世帯について適用するということでございますので、現在のところ約五十世帯が所得税を課せられておるわけでございますが、それらの所得税を課せられておる所帯については適用除外、こういうことでございます。その他の制限といたしましては、当然これは社会保険、あるいは国民健康保険の保険で行われた医療費の一部負担金相当額を助成するわけでございますが、精神衛

生法、あるいは結核予防法、こういう公費によりましてまかなわれた医療費については当然控除する、こういうことになっております。

それから、第二点目の衛生センターの浄水設備でございますけれども、規模といたしましては、現在のところ生活用水あるいはし尿処理施設の冷却等にこの用水を使うわけでございますが、処理数量によりまして浄水機のいわゆる規模というものが決まるわけでございます。現時点におきましては一日当たり大体両方含めまして六十トンから七十トン程度の用水を使用するということでございますので、それに応じた浄水機というものが設置されると思います。

なお、今度お願いいたしました搬入道路の空洞の充填工事でございますが、これにつきましては先ほど市長から答弁申し上げたとおりでございます。今後し尿処理施設等含めまして衛生センターの建設の面で、いわゆるいままで予測されなかった工事等が出るかどうかということでございますけれども、現段階におきましてはそういうことは無いというふうに考えておるわけでございますが、なおまだ搬入道路についても西長田よりの方から入り出す道路の建設もあるわけでございまして、これらにつきましてもいわゆる設計の段階で急勾配のあるものについてはそれをふるというようなことで用地の買収等もあろうかと思っておりますけれども、総体的に現段階におきまして工事の変更というのは考えておらないわけでございます。

○教育長（安田豊作君） 松岡地区の埋蔵文化財の調査について委託先ということですが、調査会というのを新しく組織いたしたい

と思います。県のほうといろいろ協議をいたしました結果、教育委員会、特に社教文化課を中心に関係部課長とそれから地元の人たちで組織しますが、中心になるのは、それを専門に調査する指導員といえますか、調査の人が必要なわけでございますが、従来ですと大学とか、あるいは県のそういう文化財センターというところに専門家があるわけですけれども、そういう人たちを頼んでますが、現在非常に手不足であって県としては一切そういう調査には出せないという状態で、こっちで探せということでございまして、ようやく二人の専門の方をお願いする目やすがついております。そういうことで新しく調査会を組織したい、こういうふうに考えております。

それから、造形作品のことについて、芸大卒業生展というのがあります、その展覧会の際に、昨年は市長と私行きまして、芸大の名誉教授の菊地一雄先生と芸大の助教授、助手の先生お二人三人でみたわけでございます。やはり、またよそのこういうことをやっているところも、そういう専門家の方を顧問として選定にあたっているわけでございますので、市としてもそういう方向で今後もやっていきたいというふうに考えております。

以上。

○経済部長（山田俊康君） 館山駅周辺市街地整備調査委託料の関係で、コンサルタントはどういうものを考えているかという御質問でございますけれども、現在考えておりますものは、県内におきましても市街地再開発、あるいは土地地区画整理等、市街地整備関係のコンサルタントをやった事例がたくさんございますので、その中でより優秀なものということで県等の指導も得ながら決定

していきたい、このように考えております。

○二〇番（石井武敏君） だいぶ輪郭がはっきりしてきましたので、ほぼ了解したわけでございます。

なお、母子家庭の医療費扶助につきまして、三百世帯からただいま説明がありました所得制限を抜いた実際の世帯はどのくらいになりますか。おそらく総世帯であつたろうと思ひますので、そのへんの説明をいただきたいと思ひます。

それから、松岡地区の文化財の調査でございます。有能な人が調査してくれるということが望ましいわけでございますが、お二人お決めになったということでございます。この調査はどういう資格を持っている方をお決めになったんですか。おそらく一般の人ではそういう学術的な判断ができないと思ひます。ある程度そういう判断のできる資格の方がいいと思ひますし、資格があると思ひますので、どういう資格を持っているのかお聞きいたします。

それから、松岡地区の文化財発掘の事業というものは、あくまでも教育的の意義の内容ではないかと思ひます。御答弁も教育長がお答えになった。教育的な意義のあるものが実際に予算上に計上された形をみると農地費の中から出てきている。これは少し筋が違うんではないか、あくまでも教育費から出てきて当然じゃないか。内容をよく見ていただきたい。内容をよく見ていただきたいと農林水産業の扱いではないわけであります。土器が埋まったのは農地かもしれません。しかしその土器が埋まったのが農地だから農地費から出てくるというのは大変筋が違うんじゃないか。あくまでも教育的な意義という内容から判断いたしますと、教育

費のほうから出てきて当然じゃないかと思いますが、なぜ農地費から出てきたんですか。おかしいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 対象となります母子世帯は、三百五十世帯の中からいわゆる所得税の課税世帯五十世帯を引いた三百世帯が今回の医療扶助費の対象である、こういうことでございます。

○教育長（安田豊作君） 埋蔵文化財の調査を農林水産の予算でお願いじゃないかということですが、埋蔵文化財の調査にいわゆる学術調査と緊急調査と二つの方法があるわけでございます。学術調査は学術的に貴重な資料を得るための、学術のための調査、これは教育委員会関係の予算にあります。いわゆる今まで行いました国分寺調査、城山調査がそれでございます。もう一つは緊急調査ということでありまして、何か事業をするためにそれによって埋蔵されている文化財が破損されるおそれがある場合には調査しなければならないという法律が五十七条関係にあるわけでございます。その際の経費は事業者負担というのが原則でございます。したがって基盤整備、農水関係の事業でございますので、その予算の中で調査費を組んでいる、こういうことでございます。

○二〇番（石井武敏君） あらあら了解をしましたけれども、松岡地区の埋蔵文化財に關しましては、事前の調査のような感じがするわけで、事前の場合にはまだ学術的な評価はできていない、こういったことになったと思いますが、そうすると、この次それが学術的な意義を持った場合には教育費の中から出てくるというふうに解釈してよろしいでしょうか。

それ以外については了解いたします。

○教育長（安田豊作君） 確認調査にありましては、大体確認調査というのは該当地区の二割ないし四割を発掘してみるというのが調査の範囲でございます。ですから今回基盤整備をして、散布をしている、大体畑の地域がそういうふうないま認定でございます。それで三百平米がちょうど三割にあたりまして、一平米五千円というところで予算計上をお願いしたわけでございます。

なお、先ほどの調査員の資格の問題ですが、学芸員で、発掘について五年ないしもう一人は何十年という経験を持った人です。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で二〇番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第五十七号一般会計の補正予算について質問を申し上げます。

まず、第一点は歳入であります。第一三款の寄附金についてであります。二百五十万円の増額補正があるわけでございますが、一般寄附金ということになっておりますけれども、どのような寄附金のお見込みがあるのか。具体的にお聞かせいただきたいと思っております。道路整備によるとか、消防関係とか、いろいろあると思っておりますけれども、具体的にお答え願いたいと思っております。

次に、歳出ですが、第三款の民生費の福祉作業所の用地の購入費であります。三百七十七平米購入するということですが、何か具体的な利用目的があるのかどうか。この点についてお聞かせ願いたいと思っております。

同じく、民生費の老人福祉費の中で、臨時家庭奉仕員賃金というところで十九万二千元が計上されてあるわけでございます。寝た

きり老人の入浴サービスに伴って臨時家庭奉仕員を雇うということとて払うものではなからうかと思うのでありますが、半年間としては大分少ないのではないか。臨時家庭奉仕員の雇用条件はどういうふうになっているのかお聞かせ願いたいと思います。

入浴サービス事業であります。対象者が何人で始めることになったのか。入浴サービスを実施するにあたって、希望はするけれども実施できないという方はなかったのかどうか。あるとすれば何人そういう方があって、どんな理由で希望したにもかかわらず実施できなかったのか。お聞かせ願いたいと思います。

私は、寝たきり老人に対する福祉という問題であります。特別養護老人ホームが在宅福祉を進めていく一つの大きな拠点という意味で入浴サービスが実施されることを非常に歓迎しているものでありますけれども、同時に寝たきり老人にならないということ、これが非常に重要な寝たきり老人に対する福祉と言えば、言葉の上では何か矛盾したように聞こえますけれども、寝たきりになる寸前の方に対してどういう福祉を進めていくかということが重要な福祉の課題になると思います。そういう意味での特別養護老人ホーム内にリハビリのための施設があると思いますが、こういう施設の積極的な活用について考えていくべきではないか、一つの提言をしたいと思うわけでございます。この点についてお考え、あるいはこれまで検討されたかどうかお聞かせいただきたいと思います。

次に、第八款土木費であります。いま石井議員も問題にされました館山駅周辺の市街地整備調査委託料であります。六十ヘクタールが対象になる面積だということでありまして、も

う少し具体的に、駅周辺と言った場合にどこを指すのか、お聞かせ願いたいと思うわけであります。

そして、この整備調査は、先ほどの説明でちょっとはつきりさせたいなと思いますけれども、自然条件あるいは土地利用等の実態の調査、市街地の環境評価を行うものであると、こういうふうには私は読んだわけであります。それ自身としてはどうするべきかというプランなり政策的な提言、これを求めるものではないというふうに理解をしたわけでありますけれども、その点どうか。

調査委託をするわけであります。この調査が調査会社によって、こういう調査ですから、往々にしてAという会社とBという会社で違う結果が出る、大きく食い違うということもあって、あの意味では当然ではなからうかと思うわけで、それだけに調査会社をどのようにに選定するかということはきわめて重要な問題だろうと思うわけであります。先ほどのお話では、県のこれまでの実績等を県から指導を受けてそういう調査会社を選定していくんだという答弁でありましたけれども、それだけではたしていいものかどうか。具体的には業者の競争入札というようなことも考えていいのではないか。その点についてはどのようなお考えを持っておられるか。

それから、調査の結果が出された段階で、これをどう政策立案化していくか。プラン化していくという問題が大きな課題であるわけです。そのためにやるわけです。当然その調査結果については該当地域の住民の皆さん方を含めてどうしていくかという検討素材にすべきだと思います。調査結果の活用の仕方につ

いて積極的に住民の意向をどう生かしていくかということについてお聞かせ願いたいと思います。

第一〇款の教育費でありますが、北条小学校の教室出入口の戸の補修工事であるとか、北条小学校の屋根の防水改修工事請負費であるとかということで一千百二十万八千円が計上されておるわけであります。提案説明の中で建設後十年で各所で雨漏りがあるというお話でありますけれども、建設後わずか十年で雨漏りがあるというのは大変問題があるのではないかと。雨漏りの原因について工事上のミス、あるいは設計上のミスなのか。この原因とその責任についてどのようなお考えを持っておられるのか。それと設計業者、施工業者は誰であったのかお聞かせ願いたいと思うわけであります。

少し戻りまして、第四款の衛生費であります。じん芥処理費として自動車等の借上料ということで六百六十一万三千円計上されているわけがありますが、ごみの埋立地の掘削あるいは整地にかかる借上料ということですけれども、こういうことは当然当初予算の中に含まれてしかるべきで、何か特別な事情があったのではないかと思うわけで、この点について具体的な説明をお願いしたいと思います。

以上。答弁により再質問いたします。

○議長（五十嵐 昇君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開いたします。

午前十一時五十分 休憩
午後 一時 三分 再開

○議長（五十嵐 昇君） 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引

き続き会議を開きます。

一番議員神田守隆君に対する市長の御答弁を願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

寄附金でございますが、二百五十万の内訳は、館山市北条一七〇六番地の四 佐伯陳哉氏から北条小学校図書購入費として百万円の寄附がございました。また、国際ロータリー第二七九地区の年次大会記念事業の一環として、造形作品の購入費に百五十万円の寄附をいただきました。

次に、福祉作業所用地購入はどのような利用目的かという御質問でございますが、御案内のように福祉作業所の目的は、在宅の心身障害者であって雇用されることが困難な者を通所させ、社会生活における適応性を高めるよう指導を行い、その自立助長を図るためのものであり、その目的の一環として将来農作業及び農業実習等を行うため、日あたりのよい、耕地の適地として接統地の購入を図るものであります。

臨時家庭奉仕員についての御質問がございましたが、これについては入浴サービスに伴うものでございますことは御指摘のとおりでございます。この事業については、運転手、保健婦、さらに家庭の協力を得ると同時に設備も機械化されており、ホームヘルパーの二名合わせて四名で十分対処することができると考えております。

現在、実施準備段階に入っておりますが、九月一日に再度希望者を調査しましたところ、寝たきり老人十名、寝たきり身障者二名、計十二名が確認されております。

また、館山特別養護老人ホームの設備利用は毎週火曜、木曜の二日間でございます。老人の健康上の観点から、午前一名、午後一名の一日二名の入浴を予定しております。

また、待遇につきましては、一日四千円で週二回勤務というところになっております。

老人ホームのリハビリ施設について検討したことがあるかというお話でございますが、検討したことはございませんけれども、今後老人ホームと相談をいたしてみたいと思います。

駅周辺市街地整備調査委託料についてでございますが、その地区は、町内会としては、六軒町の一、六軒町の六、六軒町の七、北条海岸、渚、六軒町の二の一部、新鶴ヶ谷の一部、八幡の一部でございます。地形図からいいますと、鉄道線路より西側、市道海岸線まで、北は富士ディーゼル前市道を境とし、南は汐入川までといたしております。また、さらに線路より東側の地区で、北は国道一二七号線より分岐して渚踏切に至る市道を境とし、東は館山市農協前から南へ走る市道とキネマ通りを通り国道一二八号線まで、南は国道一二八号線及び市道北条港線を境とする。この二地区でございます。

業者の選定につきましては、数社の経営面、技術面、実績等を広く調査、検討し、よりよい方法を選定したいと考えております。

調査事項は個人の私権にも及ぶものでもございまして、権利者の理解、協力を得ながら進行するものでございまして、また事業の性格上単に調査にとどまらず実現性のあるプランづくりをしなければなりませんので、地元の意見、要望等を調整しながら進行

いたしますので、したがって当然関係者の意見は反映することになるわけでございます。

北条小学校教室出入口戸補修工事請負費及び屋根防水改修工事請負費の御質問でございましたが、北条小学校教室出入口戸の補修工事請負費については、スチールサッシの出入口戸で、上吊戸車が摩滅をいたしまして、児童では容易に動かない部分がございますので、至急戸車の取りかえが必要になったわけでございます。戸車百二十二個、五十五教室分でございます。

次に、屋根防水改修工事請負費ですが、シート防水の防水が切れてまして大分雨漏りをするようになり防水改修の必要となったわけでございます。改修面積は高学年六百三十六平方メートル、低学年七百九十平方メートル、計千四百二十六平方メートルでございます。

わずか十年というお話でございましたけれども、すでにもう十年かという考え方の相違もあるわけでございます。シート防水の耐用年数は五年といわれているわけでございます。

北条小学校の設計は名古屋大学工学部助教岩田荘作先生、施工は株式会社熊谷組でございます。

自動車等の借上料についての御質問でございますが、これはごみ埋立地用のブルドーザー等重機の借上料でございますけれども、不足した理由といたしましては、現在月平均約三百五十トンの埋め立て処理を余儀なくされておるわけでございます。この用地確保が非常に困難でございまして、ようやく本年四月より神余地区に約七千三百二十七平方メートルを確保いたしましたわけでございますが、その土質が重粘土質のため、市所有の湿地プルでは掘削が

困難でございまして、また用地を長く使用するためには深く掘削する必要があり、現在約十三メートルくらい掘り下げて使用しています。この掘削のため当初の見込みよりユニボの借り上げが多くなり、またそれに伴い掘削した残土の移動及び運搬にはバケット容量の大きい乾地ブルの借り上げが必要になったためでございます。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） 寄附金については了解をいたしました。

それと、福祉作業所の農作業用地ということで、将来の利用目的があるんだということで、この点についても了解いたしますけれども、ただ三百七十七平米ということでかなり規模が小さいんではないかという点を感じるわけで、その点についてさらに今後の問題もあろうかと思えますけれども、指摘しておきたいと思えます。

それから、臨時家庭奉仕員の問題ですが、現在四千円ということとで、週二回ということで、説明の内容はわかりましたけれども、現在入浴の対象になっている方が十二名というお話でしたけれども、この中には希望するけれども実施できないという、私が憂慮する問題は、一つは入浴施設までが距離的にある、そういうことが障害になって、入浴の希望はあるけれどもできないということになったのかどうか。そういうことが気になるわけで、そういうことも含めて希望があるんだけれども実施できない。もちろん医師の診断等で無理だという方もいらっしゃると思えますけれども、そういう方も含めてそういう方があったのか。どんな理由でどのくらいお断りをしたということなのか。

それから、将来的な見込みとしては、ほかの市の実績を見てもふえてきている。こういう入浴サービスをやると評判がいい。またそういうふうになってほしいんですけれども、評判がよくなるとうえてくるという傾向がどこの市町村でもあるようなんで、十二名から出発するということなんですが、将来的に人がふえていく場合に、火曜日と木曜日二日間ということでありますけれども、施設利用という点でまだ余裕はあるのかないのか、そのへんのこととお聞きしたいと思います。

それから、リハビリの機能回復という問題では、寝たきりにならないということが一番で、また寝たきりになった場合には早期回復を図る。自分の身の回りのことができるというのが豊かな老後を送るためには大切なことじゃないかと思うんで、市長さんの答弁ではこれまで検討したことはない、しかしながら今後の問題として検討するということですから、ぜひ検討にまわりたいと思えます。

それから、館山駅周辺整備についてもおおむね了解をいたしました。やはり地元の要望——先ほどの私の理解とはちょっと違ったようで、かなりプランづくりも含めてということで、調査過程でそういった内容が入ってくるということなんで、調査結果をまとめてから地元といういろいろ話し合いしながら、それを資料にしてプランをつくるというようなことではないと、むしろ調査の過程の中で政策の問題についても十分考えなければならぬのだというふうに理解をしたわけで、そうすれば早急にこの問題についての話、どういうふうにやっていくのかということについての説明をどういうふうに開いていくのか。まだ具体的な話が、どのへんまで考

えられているのかわかりませんが、現時点でお考えになっている——今年度の補正予算ですから、三月までということ、そんなに悠長な話ではなからうかということ、お聞かせいただきたいと思います。

それから、教育費の問題でありますけれども、十年程度でということで、ほかの学校を見ますと十年ぐらいで雨漏りというのは問題だと思わなければならないけれども、シート防水という特殊な手法を使って北条小学校ができていくということ、工事上あるいは設計上のミスではないというふうに答弁の内容から理解をするわけですが、これは十年前そういうやつを選んだことが問題で、いまさらどうこうということもなからうと思わなければならない、この問題についてもその点で了解いたしました。

衛生費であります、これもおおむね了解をいたしました。

いまの民生費の関係と土木費の関係、このへんについて答弁をお願いしたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 寝たきり老人の入浴サービスでございますけれども、調査の段階におきましては希望する者も十二名以上あったわけですが、本人は希望いたしましたものとござれ等によりまして無理だという方も若干ありまして、最終的に身障者を含めまして十二名ということで……。

それから、この事業につきましては、特老施設を週二回ということで火曜日と木曜日を予定しているわけでございます。あくまでも社会福祉法人館山老人ホームの施設でございますので、老人ホームの御厚意によって使用するわけでございますので、余裕と

いうのは、特老の収容された方が主体でございますので、週二日

という線でご考えておまして、今後はできる限り回数を多くしてもらおうということをお願いしたいと思っております。

それから、なお在宅寝たきり老人で、距離が遠いからということで市のほうから断ったというケースはございませんで、これは輸送車によりまして輸送するわけでございますので距離的な問題はございません。

○経済部長（山田俊康君） 土木費の関係でございますが、地元との話をどのように進めていくかという御質問でございますけれども、現に各町内会長さん等にはすでに一部市街地調査を実施していききたいということで話を進めております。なお、合同会議等につきましても三十日に開催する予定でございます。

なお、調査のことにつきましては、あくまでも市長からお話しましたように私権にも及んでくるというようなことで、どうしても住民の皆さまの理解を得ながらプランづくりを進めていきたいというふうに考えております。

○一番（神田守隆君） 入浴サービスについては、週二回で現在十二名というお話ですから、そうすると一人の方、大体計算してみますと三週間に一回お風呂に入ることになるかと思わすけれども、月二回ぐらいは実施できるように一日二人ということ——慣れとかそういうものがあると思わすけれども、あるいは該当者が近くであるとか速くであるとか、いろいろ条件もあると思わすけれども、効果的に利用できるように、少なくとも二週間に一回ぐらいのところまではもっていただきたい、そういう検討をお願いしたいと思います。

それとプランづくり。整備委託料。地元の要望、こういった

ものが非常に大きくなってきて、昨日来論議されていることの中でも、非常に駅前周辺の整備ということが大事なことで、しかもその中で地元住民の声をどういうふうに反映させてやっていくかということがきわめて重要なポイントになるわけで、そういった意味で調査段階から住民にはできる限り具体的な説明をして、そういう中で話し合いをして進めていくようにでないと、やはり館山市の将来に禍根を残すということになるわけで、もう少し具体的な話をお聞きしたかったと思うわけですけれども、いつの時期にどういう形で話ができるのかということなんですけれども、いまの答弁でそれ以上のものが期待できないというふうに思いますので、一応これで打ち切ります。質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

次いで一九番議員石井輝久君。御登壇願います。

（一九番議員石井輝久君登壇）

○一九番（石井輝久君） 議案第五十七号、本年度の一般会計補正予算案につきまして御質問申し上げます。

通告はいたしましたけれども、昨日の一般行政質問の通告とはいささか違いまして、詳細な内容まで御通告申し上げるいとまがなかったんで、若干御答弁で、具体的な問題になりますと、御用意がない面もあるかと思しますので、ゆっくり質問をさせていただきます。

本案は、三億九千十二万円を追加計上して八十八億七千二百五十二万七千円にしようとする案でございますが、その中の歳入面についてまずお伺いいたします。

歳入の中の繰越金三億四千九百四十八万六千円、これは予算書

の二ページでございます。二ページの第一表歳入歳出予算補正、このうちの一番最後の欄一五款繰越金、これで補正額云々と出ております。この点について。それから、同じく予算書の一〇ページで、事項別明細書の歳入の一番最後でございます。この繰越金が前年度決算で実質収支——これは市長の提案説明の中にもうたっておりますけれども、実質収支で三億五千万円になんとなする黒字を生んだ。その理由につきましては、これまた市長の提案説明の中にございます。いろいろ苦しい財政の中で内部点検を行って、しかもその上で経費を節減し、そして財源を効率的かつ計画的に執行して、その結果としてこれだけの実質収支を生み出した。それが繰越金となってここに追加計上される。こういうことの御説明がでございます。たしか前年決算では一億七千四百余万円でございますから、倍の黒字決算を生んでそれが今年度の追加計上になった。館山市の財政の好ましい方向というか、健全化の方向に御努力をされた、その結果がこういうような形になってあらわれたものとして、非常に、御努力に対しまして敬意をますます表すものでございます。そしてそれを前提といたしまして事務的に質問を申し上げます。

質問しようとするものは、九ページにかえりまして、予算書の中の、議案の中の事項別明細書の九ページ一二款財産収入一項財産運用収入二目そして一節基金利子二千四十八万八千円の減額でございます。これにつきましては、これは歳出でございますが第三回館山市議会定例会議案説明資料の中の一三ページ、ですから歳出の一番最後一三款の諸支出金の中の財政調整基金積立金、この中の説明欄に記載してございます。これで大体の検討はつくわ

けてございます。つまり説明欄の説明中、ちょうど中段あたり「本年に入ってから三月と四月に預金金利の引上げがあったので、既積立金のうち定期にしてその期間がわずかしが経過していないものについて、それぞれ定期を解約して再定期とした」、その結果が今年度予定していた収入のうち二千四十八万八千円が翌年度に歳入として計上される、そのために今年度減額をした。この説明欄でその理由については納得できるわけでございます。つまりこの減額補正というのは、言葉をかえて言いますと、預金金利を引き上げるといふ国の政策に乗って、市の財源として金利稼ぎをする目的で操作をした。言葉をかえて言うといふように理解をいたします。一つの英知といえますか、いずれにしても財源をより多く確保するための目的をもってした行為であろうと思います。そこで、お伺いしたいのは、まずここにございます既積立金の金額、すでに積み立ててあった金額、これをお示しいただきたいと存じます。

その次に、解約をした定期の預金額、説明欄にうたっておりませんが、解約をした定期の預金額は幾らであったのかお示しをいただきたいと思います。

そして、再契約をした再定期預金、この金額は幾らであったのか。つまり二番目でいう解約をした定期預金額があつて、それに対応する金利の額が二千四十八万八千円であろうかと思ひます。これは私の解釈ですが、解約した定期の預金額をお示しをいたして、そしてこれは同じ額を、一べん解約してもう一べん定期の契約をするんですから同額かもしれないけれども、いずれにしても定期の預金額をお示しいただきたいと思ひます。

四番目には、五十五年三月当時の金利パーセント、それから五十五年四月の金利の引き上げの利率、この御説明を承りたいと存じます。

それから、合わせまして、金融機関別に——これは一行の場合是一行で結構ですが、分散して定期預金をしてある場合には金融機関別に定期預金額をお示しいただきたいと存じます。

それから、今年度の一番最後の時期、つまり昭和五十六年の二月現在で収入として入ってくるであろう定期預金の金利が二千四十八万八千円であろうかと思ひますが、これをいま減額補正して、——なぜ減額補正をしたかという、金利を引き上げる。だから当時解約をして預金の金利を引き上げた、その額で再契約をしたほうが金利として額は大きくなる、そのためにそういう行為をしたといふことでございますけれども、昭和五十六年二月に入るべきものを入らないで減額補正する、それはよろしうございませうけれども、昭和五十六年四月以降、つまり来年度になつてこの解約をして減額補正するのが二千四十八万八千円、そうすると来年度になると幾らになつて見込まれるのか。当然多くなると思ひます。幾らになつて歳入として見込むことができるのか御説明を承りたいと存じます。

これで歳入面は終ります。それから歳出に移ります。

歳出の第一番目は、ただいま神田議員の質疑にもございました衛生センターの搬入路の工事請負費、事項別明細書で一四ページでございます。四目衛生センター建設費千九百二十万、これは先ほどの質疑にもございましたし、予算書を見てもわかりますが、二つが一緒になつておりますから、金額の内容については御質問

申し上げませんけれども——井戸浄水設備工事請負費、これにつきましては御質問申し上げます。その下の搬入道路建設に伴う空洞充填工事請負費、これについてもつばら御質問申し上げます。

先ほどの御答弁の中で大ざっぱには承知いたしましたけれども

——つまり、どういうふうに承知したかといえますと、簡易な空洞を設計段階で見込んでおりましたけれども、実際、施行段階になってかなり大きな空洞を発見した。それが五メートルから十メートルというんですか、先ほど御説明がありましたのが、ちょっとこれ質問者には理解できたかもしれませんが、私にはちょっと理解できなかったもんですから再度お伺いいたします。もうちょっと具体的に、もう少し詳しく御説明をいただきたいと存じます。

現場の状況もわかりませんし、勉強不足と言えませんが勉強不足でございますけれども、行ってみたこともございませんから、もうちょっと具体的な、詳細な御説明を求めます。

それから、この搬入道路の設計をされた方はどなたであったのか。つまり市が設計をしたのか、果に設計を依頼したのか、あるいは民間の設計の業者に委託をして設計をしたのか、どなたが設計をしたのか伺います。

それから、空洞の充填工事でございますが、その概要の御説明をいただきたいと思えます。充填というから何か詰めて空洞をなくす工事でございますし、コンクリートを充填するののか、何か特殊な薬剤を注入して工事をする方法もあるように聞いておりますが、工事の概要の御説明をいただきたいと存じます。

それから、この充填工事というのはどういう方法で執行をされるおつもりなのかお伺いをいたします。おわかりになりましたら

か。どういう方法でこの工事は執行されるのか。そして、工期はおそらく想像するに搬入道路の工期がございしますから、その工期までの間に適当な時期が工期であるかと思いますが、工期はいつからいつまでなのか御説明をいただきたいと思えます。

それから、合わせて、この工事は発注の段階から一種の、通常行われる市の工事と違って特殊なケースに入ると私は思っております。受注しているのは三菱建設株式会社、このように報告を受けておりますけれども、工程の管理は誰がやっているのかお伺いします。

これは、それぞれ簡明にお答えをいただきたいと思えます。

次の、歳出面での質問でございますけれども、再三同僚神田議員の質疑にございましたけれども、同じく館山駅周辺市街地の整備調査委託料九百万でございます。これは事項別明細書の一六ページ、いまださらお示しするまでもございませんけれども一六ページでございます。市長の提案説明の四ページに説明がございします。「周辺市街地について、近年の商業環境の急激な変化」云々として説明されております。ことがらとしてまことに一步を進める意味で結構なことであると思いますが、神田議員との重複を避けまして若干質問いたします。

質問の第一点は、市長の提案説明の中で一番最初にうたわれている「近年の商業環境の急激な変化」ということでございます。昨日の一般行政質問でも発言をしたのでございますけれども「近年の商業環境の急激な変化」、これは私流に解釈いたしますと二年ぐらい前でございますか、ジャスコが新店してきやしないかといった時代がございました。この計画はとんざしたようでこ

ございましたけれども、実現を見ませんでしたけれども、これが一つのきっかけとなって駅前商店街では非常な危機感を持ち、そして商店街の近代化、改造ということが叫ばれるようになって、現実の問題として取り組む姿勢が見えてきたように見受けられます。そこへもってきて昨日の質疑にもございました五店舗の出店計画、詳細はつまびらかではございませんけれどももう一店の出店計画、合わせて六店、これは栗原議員もデータをお示しになって質疑をされておりましてけれども、そういうことをとらえて「近年の商業環境の急激な変化」、このように私は理解いたします。これはどなたが原稿をお書きになったか知りませんが、ここで館山駅周辺市街地の整備調査委託料九百万円を計上する理由の最大のものとしてうたっている、市長の提案説明にございますこの意味するものは、私の理解と同じものなのか。参考のために聞かせ願いたいと存じます。

次に、言葉じりをつかまえるわけではございませんけれども、提案説明の中の四ページの最初から数えまして七行目「それらを踏まえて、市街地整備の必要性を検討し」とございます。これは必要か、必要じゃないかということを検討してください、必要じゃないか——それはちょっと言葉じりをつかまえるようにですけれども、必要性をコンサルタントに検討してもらい、必要か、必要じゃないかということを検討してもらいのも一つの目的かなとこのような認識の仕方もあるわけでございます。ちょっと言葉じりをつかまえるようになりまして、けれども、そこらもお考えをお聞かせ願いたいと存じます。いまから必要性を検討するのでございますかということが質問の要旨でございます。

引き続きまして、この調査委託にはこういうことを調査してくださいという、内容に特定事項が示されて調査を委託されるのかどうか。とするならば、どういう特定事項をお示しになるおつもりなのか、お聞かせ願いたいと存じます。

それから、この質問の最後でございますが、委託をする時期はいつごろを予定しておられるのか。委託をする時期でございます。そして、その調査の完了の時期をいつごろに予定しておられるのか御説明を賜りたいと存じます。

それから、歳出の一番最後でございますが、財政調整基金費について一、二御質問申し上げます。これは事項別明細書で一番最後の一九ページ、一番末尾でございます。諸支出金一三款でございます。

これは当初予算で二千三百二十九万二千円を計上していたのを二億七千九百五十一万二千円を追加計上して、合わせて三億二百八十四万四千円としようとする予算でございますけれども、これは従来で財政調整基金としては金額として最高であろうかと思えます。要するに館山市の財政で——冒頭歳入面で繰越金に触れましたけれども、繰越金と関連いたしました、こういう財政調整基金費になって具体的な歳出面にあらわれてきているものとして、御努力のためものと評価をいたします。これは市長の提案説明の中の予算説明の一番最後で、「前年度繰越金のうち地方財政法第七条の規定により財政調整基金積立金として二億七千九百五十一万二千円の追加をお願いするものであります」、このような御説明を承りました。いま九月議会でこれだけの追加計上できるということは、まことに財政上御同慶にたえないものと存じます。

そこで、一、二お伺いしたいということは、繰越金が三億四千九百四十八万七千円、そしてこの中で、この財政調整基金費の追加計上するにあたって一般財源として三億を充てているということとでございます。つまり繰越金とこの三億の差引勘定をすると四千九百四十八万七千円が残ります。だから財政調整基金の積み立てのほうに三億をふり向けて、そうすると繰越金のうちの差額の四千九百万円、約五千万が余裕財源として生ずるわけでございますけれども、繰越金のうちで財政調整基金費の積み立てとして三億をここで計上しておりますけれども、この三億を計上したというその根拠、理由をお示し願いたいと存じます。高度な政治的な配慮があったかもしれませんけれども——ですから、ここにもございまして特定財源の「その他」の二千四十八万八千円の減額補正をここでしております。これは私の質問で、一番最初の歳入面での質問で関連いたしますから、連動しますから、これはよろしゅうございますが——だから差引勘定で三億を一般財源として計上している、どういう理由で三億という数字が出てきたのか、金額が出てきたのか、根拠、理由につきまして御説明願いたいと思います。

それから、もう一点。この財政調整基金というのは、市長の提案説明でうたっておりますけれども、地方財政法の中の第七条で——第七条の中に幾つか項がございますから、地方財政法第七条の前年度剰余金はこういようにしなさいという、示されている規定でございます。規定に基づいて、「剰余金のうち二分の一を下らない金額は、これを剰余金を生じた翌年度までに、積み立て、又は償還期限を繰り上げて行なう地方債の償還の財源に充

てなければならぬ」、これが第七条の一項の規定でございます。うけれども、だからこれは適法に計上をして、剰余金として計上した、これはいいんですが、年度内にどういう使途にこれを振り向けようと今後されるのか、あるいは振り向けないで次年度に繰り越していこうとするのか。要するにこれだけの財政調整基金、手持ちを持っているということとは非常に強みでございます。災害がいっつ生じて、少々の災害ならびくともしない。財政上非常に安定感のある九月の補正だと私は評価しながら質問するんですが、年度内に——これは大ざっぱでございますけれども、どういふうにお使いになるか、簡単に結構ですがお聞かせを願いたいと思います。

以上御質問申し上げまして、御答弁によりまして再質問いたします。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 石井議員の御質問にお答えをいたします。

財政調整基金の利子の問題でございますが、数字でございますので総務部長のほうからお答えをいたします。

衛生センター搬入道路工事についての御質問でございますが、設計業者はサンコーコンサルタントでございます。

経過を申し上げますと、新設搬入道路の建設用地一帯には白土、砂等の採掘跡がありますが、白土については地下数十メートルの位置にありまして、陥没、沈下のおそれがないものと判断いたしましたわけでございますけれども、砂の採掘跡については比較的低い位置にあり、重機等により強制崩落させ、填圧しながら施工しておりますが、全長約千六百三十メートルのうち約六十八メー

トルにわたりました。路床下約五メートルから十メートルの位置に、砂礫採掘跡の空洞が見られたわけでございます。建設工事には直接影響はございませんけれども、将来風化等によりまして支柱崩落等の危険性が全くないとは言いきれないと判断いたしまして、安全を期するため充填工事を実施するものでございます。

この充填工事の工法といたしましては、経済性、施工性、工事効果、対外問題等検討の結果、発泡モルタル充填工法を採用しようとするものでございます。

工期は約一カ月を予定しております。工程管理につきましては建設課であたります。

それから、館山駅周辺市街地整備調査委託料に関する御質問でございますが、提案理由の説明で申し上げました「急激な変化」とは、おおむね御理解のとおりでございます。

また、必要性といったことも、改めてその必要性を検討するのかもしれないことでございますけれども、御指摘のとおりでございます。

開始時期及び完了時期でございますが、予算の御承認いただきまして後におきまして、直ちに、なるべく早く早く契約をいたしまして、三月三十一日までに完了いたしたいと考えております。

財政調整基金に関連する御質問でございますが、三億を積み立てることについては、三億という金額には特に根拠はございませんが、三億四千九百四十八万七千円余の剰余金が出ましたので、そのうち約五千万ほどを補正予算の財源として使ひ、残った分を財政調整基金に積み立てる、そうした関係でございます。

何に使うかというお話でございますが、市が将来計画を立てて

おりますコミュニティセンターとか、あるいはごみ焼却場とか、城山公園の整備等今後多額の費用を要する事業が予定されておりますので、それに対処するために積み立てたい。もちろん、財政調整基金の一般的な性格でございますが、予期し得ない災害等により生じた経費、あるいは経済事情の著しい変動に対処するための財源といった意味もございまして、当面考えておりますのは、そうした大きな経費支出に対する基金というふうに考えているわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○総務部長（石田雄一君） 石井議員のまず第一番目の質問の補足を申し上げます。

まず、第一点の既積立金の問題でございますけれども、決算年度末の現在高で申し上げますと三億九千五百五十七万七千円でございます。

二番目の質問の、解約した定期の預金額でございますけれども、解約は四本、トータルで三億五千九百四万円でございます。

三番目の、金融機関別の金利でございますが、五十四年三月並びに五十五年四月の時点での金利ということでございました。公定歩合でございますと、五十四年三月時点は三・五％。大きく金融機関で分類いたしますと、都市銀行で五・五〇、地方銀行で六・一三、相互銀行等で六・七八というような数字が出ておりました。それに対します五十五年三月の公定歩合が七・二五でございます。都市銀行七・〇七、地方銀行七・一五、相互銀行七・四四というような数字が出ております。本市におきます定期の預金でございますが、五十四年三月時点での金利でございますと六・一が最高で

ございます。それから五十五年の四月時点での最高は七・八五という数字になっております。

四番目の質問でございますけれども、今回の補正によりまして、二千四十八万八千円というものが減額になるという補正をいたしたわけでございますけれども、本年度そのまま定期を解約しないとした場合、二千六十万八千円というような金利が見込めるわけでございます。なお、これを翌年度以降の定期の解約によって高金利に振りかえた場合には、二千八百万八千円ということでございますまして、増額六百四十万円が期待できるという結果になります。

補足説明で漏れがございました。金融機関別の預金でございますが、金額の大きな分類でございまして、個々の金融機関別は、ちょっと調べさせていただきたいと思っております。

○経済部長（山田俊康君） 土木費の関係でございます。

館山駅周辺の委託について、特定事項を詳細にということでございますが、まず現況調査というものが行われます。現況調査の内容でありますけれども、内容としては、建築物の現況調査——構造、階数、建築時期、それから土地権利関係の調査——これは土地の所有者、借地権者、地目、地積等、土地の価格の概定調査——これは地区内とその周辺における鑑定機関による評価例や売買実例等を参考にして、これに必要な補正等を加えて、地区内の土地の価格の鑑定を行います。建築物の権利関係の調査——これは所有者、借家権者、構造、階数、床面積、それから用途等を調査いたします。建築物の価格の概定調査——これも個々の建築物についてそれぞれ行います。それから住戸規模調査——こ

れは住戸に住居している人員を把握するわけですけれども、それと同時に現地調査によりまして住戸の規模等を合わせて調査して住居水準というんですか、そういったものまでも含めて把握するようにしております。賃貸料の調査——借家、借地等の賃貸料の調査でございます。商業活動の現況それから施設、設備を調査いたします。それから公益施設等についても、地質、地盤調査、それから地区内の工作物の調査等の現況調査を行います。それを踏まえまして計画条件の整理、あるいは環境評価と、市長が申し上げましたように整備課題等の設定等も合わせて整備していく予定でございます。

○総務部長（石田雄一君） 補足の説明を申し上げます。

各金融機関別の預金額の数字でございますけれども、千葉銀行二億一千六十二万一千円、千葉興業銀行三千万円、千葉相互銀行同じく三千万円、太陽神戸銀行三千万円、館山信用金庫三千万円、館山市農協三千万円、以上でございます。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

それぞれ御説明をいただいて、大体説明に対する理解はいたしましたけれども、まず歳入の繰越金についての具体的な内容についての御説明を承ったわけでございます。

解約した定期預金が三億五千九百四万、これは再契約をされた定期預金額についてお伺いしたんですが、聞き漏らしたのか、合致をしておりますか。合致をしていればそれでよろしいでございます。

利率は、五十五年三月当時で六・一％、若干の相違はあるでしょうけれども、そしてひと月違った五十五年四月には七・八五

かなりの金利の差がございます。この金利差が、結局具体的な質問の最後でございますが、表現の仕方が当局側と質問者の私とは違いますけれども、あえて申し上げますならば、利子稼ぎ、要するに利息の変動を巧みにとらえて、市の財政を潤すために操作をされた、その結果総務部長の御説明にありましたように、五十五年度中に二百六十万八千円を当初予定したのがこの操作によって二千八百万八千円、つまり差額で六百四十万円ほど生ずる、将来、まことに巧みな操作だと思つて改めて敬意を表します。お世辞抜きで評価をしながら敬意を表する次第でございす。今後も景気の変動によって生きた財政運用というものを、非常に巧みで、これも多年にわたる財政逼迫から生じた市当局の知恵であろうと思います。高く評価をいたします。ですから、この点に關します質問はこれで打ち切ります。

これは、歳出の最後の財政調整基金費との連動、対応、関連がございすから、途中の歳出の面を抜かしまして、質問を打ち切りますけれども、歳出の最後の財政調整基金で若干再質問を申し上げます。

ただいま市長から御説明をいただきましたけれども、九月議会で三億円の一般財源を財政調整基金費に充てる、それは特別な根拠はないけれども、三億四千九百万、約三億五千万の前年度の実質収支黒字を生じた、そのうち約五千万円を一般財源、余剰財源として振り向けて、残った三億を特別の根拠はないけれども財政調整基金に充てた。財政の運用ということで十分理解できます。ですから、この点に關しましての質問は評価をしながら打ち切ります。

それから、二点目の財政調整基金に対します質問の中で、使途として挙げられましたコミューニティセンター、あるいはまたごみの焼却場、さらに城山公園等々に振り向けていかれる、これは館山市の重大な当面している根幹の事業でございすから、まことに結構だと思ひます。またこれだけの余剰財源がございすすと、先ほども申しましたけれども、少々の災害があつてもこれだけ準備があれば、国、県の災害の補助金等と合わせれば非常に力強い、びくともしないといつてもよからうと思つております。そういう点で高く評価をいたします。

ところで、再質問でございすけれども、一つお伺ひしたいと思ひますが、館山市は膨大な地方債を抱えております。地方財政法の七条の剰余金でも触れておりますけれども、調整基金の積み立て、あるいはまた地方債の償還に充てるということがうたつてございす。選択は地方自治体の任意でございすから、いづれに選択してもいいわけです。館山市の場合は財政調整基金として積み立てて館山市の事業の執行の面で役立てたいという選択をしているわけですが、高くその選択を評価するものでございす。一方で法律でうたつてある地方債の償還、放っておきますと公債費が年々増高していくことになるんで、長期的に見ますと——当面している諸問題という観点からいきますと、非常に巧みな予算の運用だと思ひますが、ただ将来的なことになりますと、別にけちをつけるわけじゃなくて、地方債の償還計画に振り向けるのも一つの選択の仕方、それはいづれにしても、そういうことはよろしうございすけれども、今後の地方債の——これは計数的な説明じゃなくていいですが、努力目標としていま抱

えている地方債の、将来長期にわたっての償還に対する気構えを簡単に結構でずがお示し願いたいと思います。

今度は順序がかえりまして、再質問の第一点の衛生センター搬入路の工事請負費に關します数点でございます。ただいま市長からの御説明で、私は現場を詳細に承知していない質問者でございますけれども、理解はできました。つまり設計業者はサンコーコンサルタントという民間の設計者が搬入路の設計をされた。千六百三十メートルの工事延長でございます。その中で過去に硅砂を掘り起こしたところが六十八メートル、路床の下でございますけれども、五メートルないし十メートルのところに白土の空洞が見られ沈下のおそれはない、あるいは陥没のおそれはないけれども、硅砂の部分のほうに危険を感じたので充填工事をするという、理由はよくわかりました。そこで、工事の方法として何か発泡を充填するといいましたが、充填工事の概要をもうちょっと御説明いたしたいと存じます。

合わせて、搬入路そのものの、本体というか、本工事のほうは着々と進んでおられると思いますけれども、月日にしていつごろ陥没の危険あるいは沈下の危険を感じたものかお伺いいたします。着工後どのくらい、おおよその月日でお示しいたきたいと思ひます。それと充填工事の概要の御説明を承りたいと思ひます。

それから、工期は一カ月程度。そうすると先ほどの質問で充填工事はどういう方法で執行するのかというのが一つあったんですが、具体的なお答えがなかった。つまりこれは別工事として、つまり搬入路の全体工事の一環として追加のような形で執行するの

ではなくして、予算計上に基つきまして、別工事として発注してその工期は一カ月、このように理解してよろしいのか。あるいはそうじゃなくていまやっている道路工事の中の追加工事として含ましてやるのか。どんな方法で執行するのかということはそういうことでございまして、ちょっとそのところが御説明をいただけなかったんで、もう一べんお伺いいたします。

工程の管理は市の建設課がやっておられるそうですから、ベテランがそろっておりますから、工程の管理は任せられると思ひますので、その点に關しましては質問を打ち切ります。

言っていることがおわかりになりましたか。具体的に工期の一カ月はわかりましたが、それで工期の一カ月というのは、充填工事に限っての一カ月だと思ひますけれども、おおよそ十月の一日あたりから一カ月というふうに理解してよろしいでしょうか。一カ月というのは厳密でなくてよろしいですが、何月何日から何月何日まで、何日を起点として考えてよろしいか、参考のために聞かせ願ひたいと思ひます。

それから、次の質問の、館山駅周辺市街地の整備調査委託料でございますが、ただいま市長から、あるいはまた経済部長から答弁をいただきました。まず第一点の市長の提案説明の中にございます「近年の商業環境の急激な変化」、これはどういう意味かというところで、私はかつてのジャスコ出店計画に始まって最近の相次いで起こっている大型小売店の出店計画、こういうことをとらえて「商業環境の急激な変化」ということを言われているんですかということをお申し上げしましたが、「おおむね理解のとおり」であり、私の認識と市長とがほぼ一致しておるわけでございまして、

これに關しましては質問を打ち切ります。

そこで、この九百万円かけて調査をするんですが、経済部長の御説明で特定事項という内容につきまして説明を受けました。建築物、それから土地の利用關係、権利關係、建築物の価格とか土地の価格、住居の人口、賃貸料、あるいは商業活動の現況とか公益施設、地質、地盤調査、かなり広範な範圍にわたって特定事項として調査を委託されるようです。昨日も質問したんですが、都市計画街路につきまして——すでに本當はわかっているんですが、わかっているわけじゃないんですが、決定されるまでの経過につきましてもお伺いしたわけです。そのときに關係地主の關係數、關係家屋の關係數をそれぞれお聞きしたんですが、調査をしていないという、お答えをいただかなかった。ただいまお伺いしますと、周辺地域に限ってはこの調査によつて關係家屋件數明らかになっていくわけなんです。それだけじゃなく価格等にも關しても売買実例等々調査が行われる、非常に明らかになつてそれは結構でございます。ですから早急にやつたほうがいいと思います。

先ほど第二番目の質問として、市街地整備の必要性をこれによつて検討する、ということとは、市街地の整備をこれによつて、調査した結果として、これは大変だから必要性がないんじゃないか、必要性の検討を依頼すると、調査したけれども市街地整備の必要性はありませんということになりかねない。そういうことを含めて調査委託する、市長の提案説明ではわからないから私はあえて質問申し上げたんですが、ただいまの御答弁ですと「御指摘のとおりであります」と、必要性の有無を検討する、私の理解の仕方、それで「御指摘のとおりです」というお答えをそのまま受け止め

ますと、この調査結果で、コンサルタントが調査をしました、關係地主はこれだけです、価格はこれだけです、特定事項についてそれぞれ調査結果を報告します。文書になつて私どもにも回ってくるでしょう。その結果として市街地の周辺整備は地権者等々のむずかしい条件があるから、必要性の有無からいくと、必要性の点でやらないほうがいいですよというような、まあ、あるうちはなからうかと思ひますが、私はそういう意味で質問した。「御指摘のとおり」だとそういう理解の仕方になつてしまふ。言葉じりをとらえるわけじゃございませんけれども、特定の事項はわかりましたのもう一べんお答えをいただけたら幸いでございます。調査の完了の目途、これは今年度いっぱい、昭和五十六年三月三十一日、これはよくわかりました。

それから、発注の時期は可及的速やかに、これもよくわかりました。

そこで、これは神田議員との質疑ですでに尽きておりますが、コンサルタントの業者の選定、非常にむずかしいと思ひますけれども、それは当局を信頼し、県の指導を信頼する以外にないと思ひます。ですから慎重にお願いしたいということを要望いたします。

ただ、先ほどの質疑もございましたけれども、また私昨日の質疑の中でも再々申し上げましたが、また過去にも御質問申し上げましたけれども、駅前の場合には都市計画街路の二十二メートルのものと現在の現道部分との調整ということを非常に私は大きく考へておるわけでございます。これは昨日の質疑にございましたから再質問することは省きますけれども、これらの調整には、特

定事項かどうかわかりませんが、ことに昨日の答弁で都市計画街路は一步も動かすことはできないということを前提とするならば、なお商業活動が現在行われている現道部分との調整、これは本当に大事だと思えます。これに關しましてはコンサルタントと詰めた合意といえますか、をお願いしたいと思います。特にこれは強く要望しておきます。

それから、先ほどの答弁の中に、神田議員の質疑の中でもございましたけれども、この調査委託はあくまでも調査委託であって実施設計を依頼するんじゃないと思えます。要するに冒頭質問した「商業環境の急激な変化」、これは怒濤のようにいままさにやってくるという大型小売店舗、この防壁として駅前の整備をしようとするならば、やはり急激な変化に対応できるだけのスピードというか、を持たなければいけないと思えます。これでいきますと、とにかく調査が終るのが来年の三月三十一日、それから先どうされるのか。対応の仕方としてはどうにもしようがないと思えますけれども、民間と役所のスピードの差がありますから、対応の仕方としては非常にテンポの遅い——テンポの遅さをどうカバーして市政の中に反映されていくのか。再質問、よろしゅうございますか、意味わかりますか。テンポの違いをどう調整されているのか。二十二メートル道路と現道との調整、これは地元との調整です。いままさに急激な商業環境の変化を来そうとしている、また来しつづける、それに対応していくスピードの違い。向こうはどつとくる、こっちは戦車がゆっくり歩いていくような形で、来年の三月三十一日に九百万円の調査が完了する、そしてどうしようか。テンポの違いの調整をどう埋めていけるおつもりかど

うか。この点簡単に御説明願いたいと思えます。

以上、再質問いたします。

○総務部長（石田雄一君） 財政運営の長期的安定性に向けての財政担当者の気構えといった問題があったと思えますけれども、その中でも特に大事なことは地方債の発行についての配慮、これは一番意を用いる点であろうかと思えますが、館山市の場合は地方債の現在高四十五億ございまして、これに向けての償還をいかなければなりませんけれども、五十四年決算での公債費比率が七・八でございまして、県平均の一から見ましても下回っておりますので、この数字的には、一〇％以内であれば財政の弾力性を阻害することはあり得ないという経験的な数字がございまして、この数字を一応基準にいたしましての運用を心がけたいと思えます。

なお、財政調整基金の関係でございすけれども、将来繰り上げ償還含めましての運用も考えたいというふうに考えております。○民生部長（鈴木 力君） 搬入道路の充填工事の概要でございすけれども、方法といたしましては発泡モルタル充填工法という工法によりまして施行しようとするものでございます。施行の方法といたしましては、空洞の部分の両サイドの施行境界を土のうで仕切りまして、順次発泡モルタルを充填していく方法をもちまして施行していきたいと思えます。

硅砂の空洞を発見した時期につきましては、搬入道路の工事を着工した時点におきまして判明をいたしましたものでございます。

それから、なお充填工事につきましては、道路工事の別工事といたしまして施行を予定したものでございます。

それから、なお充填工事につきましては、議会の議決をちょうだいいたしました後に着工してまいりたいというふうに考えております。

○経済部長（山田俊康君） 調査の關係でございすけれども、現況調査が終つてどうするかという御質問でございすけれども、現況調査が終りますと当然事業手法の検討、区画整理事業でやるのか、市街地再開発でやるのか、どうするかというようなこと、事業計画のモデルの作成、そうして当然資金計画、権利変換の計画、あるいは工程、実施上の問題点の検討等をしていかなければならない。また、その次は当然より広く広報活動等もして、事業計画を住民とともに修整したりしながら、実施へ向けて進んでいくということになるかと思ひます。

テンポの違いをどう調整するかということですが、現実其他の都市等で起こつております。いままで実施しておりますものでは、県内の例で申し上げますと、成田は調査を始めてから五年かかつて区画整理事業に着手するというような状況下でございす。非常に住民との調整というのに時間がかかりまして、各市とも非常に多くの時間を要しているのが実態でございす。なるべく早くまとめた、こういうふうには考へております。

○一九番（石井輝久君） 三回目ですから簡単に再質問いたします。搬入路で、なるほど発泡モルタル充填工事、工事の概要はただいまの民生部長の御説明で了解できました。

これは別工事で行う、これも了解できました。別工事の施行の方法は、おそらく別工事ですから専門業者があるんだと思ひすけれども、議決後早い機会に発注されるという

ような理解の仕方で行つて打ち切りますが、ただいまのお答で、いつこれに気づいたのかということ、着工早々、着工時点でというお答でした。着工時点で気づかれてそして今日まで放置されていたということは、いままですこれによって工事そのものに支障を来さなかつたのか。そして、また将来支障を来さないのか。それだけお伺いをいたしたいと存じます。

それから、発泡モルタル充填工事ということで、陥没ないしは沈下のおそれを防止するという工法、搬入道路の設計を委託したサンコーコンサルタントがこういう判断をされたのか。あるいは別の誰かが発泡モルタル充填工事という方法を考案されたのか。参考のために御説明を承りたいと存じます。

あとは質問を打ち切ります。

次の、駅前の整備調査委託料に關しての質問でございすけれども、質疑は大体尽きかかつていると思ひますが、先ほどの説明で成田では五年を要した。そうでしょう。とにかく駅前の周辺といつても歴史は長うございすし、營々と築きあげてきた地権者それを根本的に、抜本的にかえていく、これは非常にむずかしいこととございす。だから民間企業が怒濤のように押し寄せてくるそのテンポと、それに対応しようとしても速やかに対応できない。当然テンポの違いがあると思ひますが、いずれにしても英知を集めて対応していかなければならないと思ひす。今後もしっかりの御努力を強く期待いたしまして、これに關する質問は打ち切ります。

それから、先ほど総務部長からお答がありました剰余金と地方債の返還、そして公債比率が七・八で一〇以内だからまあ

まあだという御説明も理解はできません。合わせまして将来繰り上げ償還を含めて考えていきたいというような御説明で、満足してこれは質問を打ち切ります。

以上、再質問いたします。

○民生部長（鈴木 力君） 市長からお答えいたしましたように、この空洞につきましては建設工事の施行上は直接影響はないわけでございます。将来の安全を期するためにここで充填工事を実施するのが望ましいんだということによりまして施行する次第でございます。

それから、今後施行しようとする工法につきましては、現在道路工事を施行しております三菱建設株式会社によりまして検討いたしました結果、この工法が最もよいだろうというふうなことで出てきたわけでございます。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で一九番議員君の質疑を終わります。

以上をもちまして通告者による質疑は終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。

○二九番（安西益男君） 二点ほどお伺いいたします。

一四ページ一四節の使用料について。自動車等の借上料について先ほども質問がございましたけれども、六百六十一万三千円、説明はお聞きしたわけでございますが、昨年もかなりの予算、さらにまた年々のように相当額の予算が計上されるわけでございます。こういったことでもかなりの予算が計上されておるわけでございますが、大分以前にもこの点につきまして質問したんですが、機械を買って、買った年はかなりの予算がかかるとしてもあとは人件費で済むんじゃないかというような計算をどうしてましたか

なるわけでございます。この点は今後どのようにお考えになっていかれるのかということでございます。

二点目といたしましては、これも先ほどの一七ページ一五節の工事請負費、北条小学校の件でございますが、教室出入口戸の補修、それから屋根の防水改修工事ということでございます。先ほど十年ということで「もう十年」、「まだ十年」というような見解の相違があったようでございますが、少なくとも昨年度も相当額の屋根の補修費にかけた。さらにさかのぼって大分前にもかなりの雨漏りがしてということがあった。北条小学校につきましては当初名古屋大学の教授の方が、モダン校舍ということで評判がよかったわけですが、でき上がったところが思ったより欠陥が多かった。たとえば照明の不備、あるいは低学年の教室の出入口が雨がしかかって困ったということもあって、それからいまいわれたように雨漏りがあるということ、決して年数がきたから仕方がないということじゃなくて、ほかの学校でもそういうことがあるのかどうか。設計の時点で悪かったのか、あるいは設計業者に欠陥があったのかということがどうしても表面に出てくるわけでございます。当初からかなり父兄からも苦情が寄せられておったということは当時の校長さんもよく御承知だと思います。ですから安易に十年たったから仕方がないということで済むとはちょっと考えられない。前回照明の問題でもお願いしてやっていただいたその時点でも若干申し上げたわけでございますが、こういった問題は、振り返ってみてあれでよかったのかどうかということをひとつお聞きしていきたいと思えます。

○民生部長（鈴木 力君） ごみの埋立地で使用しておりますユニ

が、ブル、あるいはダンクにつきましては——埋立地につきましてはは——三月まで犬石の山林をお借りしておったわけでございます。そこが一ぱいになりました、神余の地元の皆さま方の御理解によりまして大高尾に移したわけでございますけれども、御承知のように犬石につきましては砂地でございます、作業をするについても非常にやりやすい状態の土質であつたわけでございますが、神余につきましては非常に粘土質でございます、そういう面におきましては非常にいいブルの使用というものが大きくかかるというような結果になつたわけでございまして、そんな関係によりまして今回追加をお願いしたような次第でございます。

なお、埋立地で使用しております借り上げにつきましては、業者の方に運転操作一切をお願いしてやっているわけでございますので、それらを含みましての借上料でございます。そういうことで御理解をいただきたいと思ひます。

直接買つて運転するということになりますと、人件費等かなりかかるわけでございますので、いろいろの面から検討いたしました、現在の方法のほうが経済的にやすいという結論でございますので、このようにいたしましたわけでございます。

○教育長(安田豊作君) 北条小学校の雨漏りの修理が再三あつてかかりますんじゃないかということでございます。今回お願いしてあります千四百二十六平米の屋根についてはシート防水部分でありまして、このところはいままでも修理をしない、初めての部分でございます。防水にはシートとアスファルトと、最近ウレタン防水というのがあるそうですが、北条小学校はシート防水で

やっておりますので、耐用年数は五年だといわれております。アスファルトだと十年ぐらい持ちますが、そういう関係で今回初めてお願いする……。それから、いままでも雨漏りその他でお願いした部分は、いわゆる明かり取りのためのガラスの部分、台風の他で二回ぐらい取りかえをお願いした、これがかかりあつたと思ひますが、大部分がいわゆるトタン屋根といひますか、この部分は一切雨漏りがありまして、塗りかえをお願いしたことがあつたと思ひます。こういうことでございます。

○二九番(安西益男君) シート防水にしても、いずれにしても現実に修理してあるわけですから。どんなことにしても雨漏りをしたことは事実ですので……。ですから、当初から三年、五年もつというところで工事はやらなかつたと思ひます。さっき言つたように五年たつたから、言つても仕方がないんだということになりますので……。雨漏りだけならいいんですけれども、先ほど申し上げましたように低学年の入り口が雨がかかるというような、確かにそういうようなこともあると思ひますが、そういう点もこれから多くなつてまいりますと、教室にまで雨が吹き込むというようなことで、設計がどうかという感じをするわけです。照明は直していただきましたので結構ですが、非常にそういう心配も父兄からあつたということでございますから、ただ考え方として、十年たつたからいいんだということでは前進がないと思ひますので、そういうことで今後十分建設にあたつてはそういう点を考慮されて検討していただきたい。この点を強く要望しておきたいと思ひます。

○議長(五十嵐 昇君) 以上で二〇番議員の質疑を終わります。

次、三番議員綱島憲治君。

○三番（綱島憲治君） 一点だけ伺いたいと思います。

一三ページ母子家庭医療費給付扶助費でございますが、先ほどの説明を聞きますと他法優先のように伺いましたんですが、その中で二つばかり例を挙げましたようですけれども、現在高額療養費で三万九千円以上のものは保険で処理をするような状況になつておりますし、そのほかに難病、奇病対策等の関係もございまして、そうしますと、先ほどの説明ですと保険のいわゆる個人負担分をカバーするような御説明のようでしたけれども、三万九千円以下の場合のみ扶助費によってカバーするのか。それがまず第一点。

それから、実際の事務手続きはどのようにされるのか。

それから、老婆心でございますけれども、事務手続きによっては医者の方への事務負担もあるわけで、そのほうはどのように話し合いをされたか。

以上、三点をお聞かせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） お答えいたします。

母子家庭の医療費給付扶助費につきましては、対象世帯のいわゆる母と子の入院したときの入院費について、いわゆる保険で適用された一部負担金相当額を助成するわけでございます。当然高額療養費の三万九千円以上かつたものについては高額療養費で支給されますので、それ以下ということになるわけであります。

それから、事務手続きにつきましては、現在要綱を作成しておりますけれども、これは申請に基づきまして、いわゆる保険の療

養費払いという形で、各病院から費用の明細を申請していただきまして、医師の証明と申請書に基づきまして市長が認定した結果助成をいたすわけでございます。

それから、なおこの制度につきましては、あくまでも公費負担いわゆる結核予防法、あるいは精神衛生法、その他公費によって負担されるべき医療費につきましては当然除外をした、あとの保険で本人の負担した額に対する医療費相当額を助成しよう、こういうことでございます。

医師会のほうと具体的な話し合いはしてございません。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で質疑を終結します。

委員会付託

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となっております議案第五十七号及び議案第五十八号の各会計補正予算は、お手もとに配付してあります議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

○議長（五十嵐 昇君） 暫時休憩いたします。

午後三時 零分 休憩

午後三時二十二分 再開

○議長（五十嵐 昇君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第三、認定第一号乃至認定第七号昭和五十四年度一般会計、各特別会計決算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、順次発言を許します。

一 番 議員 神田守隆君。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 通告しました諸点につきまして質疑をいたします。

認定第一号昭和五十四年度館山市一般会計歳入歳出決算についてであります。

まず、歳入でありますが、第一款市税で収入未済一億五千二百万余を出しているわけであります。決算審査意見書においても徴収率は九四・六％で前年度を下回ったことを指摘しておるわけであります。また不納欠損では対前年度四九三・一％というように大幅にふえております。こうした収入未済額や不納欠損の増大は国民の税負担の増大がもたらしている結果の一つではないかと憂慮するものであります。この点についてどのようなことが原因であるというように考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、特別土地保有税についてであります。決算額で対前年度二五・七％の減、金額で三千百五十八万一千円余も少なくなっているわけであります。これは法改正による納税の免除によるものが多いと思うわけでありますが、現在地方税法六百三条に基づいて免除となっているものは何件あり、税額では幾らなのか。また、逆に課税されている件数は何件あるのか。お知らせ願いたいと思います。

地方税法の第三条では、「地方団体は、その地方税の税目、課税客体、課税標準、税率その他賦課徴収について定をするには、当該地方団体の条例によらなければならない。」とうたっているわけであります。そこで市税条例を調べたわけでありますが、地方税法六百三条にいう納税義務の免除、これは特別土地保有税についてであります。どこにもうたっていないと思うのでありますけれども、いかがですか。

第九款使用料及び手数料についてであります。市営住宅の使用料の収入未済が前年度より六十一万八千円余えて百六十万九千円になっているわけであります。五十四年度に大変ふえたわけであります。何か特別な事情があったのか。この収入未済は何世帯からのものであるか。収入が著しく低額であるとき減免ができるとの規定があるわけであります。これらの収入未済のうちかなりな部分が市営住宅の条例第十三条の減免世帯に該当するのではなにかと思うわけでありますが、いかがですか。

市営住宅は、家賃をとることが目的ではなく、むしろこうした低所得世帯の減免ということは福祉施設としての役割を果たしているものと評価されるべきであろうかと思われま。減免の対象になり得る世帯から使用料をとっているとすれば速やかに減免の措置をとるよう指導すべきではないかと思うわけでありますが、いかがでしようか。

第一三款寄附金についてであります。対前年度二八％とふえて二千四百六十八万五千円になっております。寄附金は市道舗装工事等寄附金三百七十六万一千円をはじめ、奨学資金寄附金、消防関係寄附金、那古小学校備品整備寄附金、第一中学校屋外プール

寄附金、沖の島公園整備寄附金、漁港整備事業寄附金、一般寄附金として各項目が明らかにされ、それぞれ金額が明示されておるわけでありますが、誰から得た寄附金であるのか具体的に御説明を願いたいと思うわけであります。

と申しますのは、地方財政法では割り当てる寄附の禁止をうたい、また小学校、中学校の建物の維持修繕に関する費用は住民に負担させてはならない、住民の税外負担の解消に努めなければならぬことをうたっているわけであります。こうした点からこの寄附金の内容について十分納得のいく説明を得たいと思うわけであります。

第一款県支出金についてであります。畜犬登録交付金、注射済証交付事務委託金についてであります。五十三年の決算でそれぞれ二十一万七千円、十七万一千円に比べて、この五十四年度の決算では百四十九万八千円、三十六万三千円と大幅に増額をみただけであります。この歳入については犬行政のために積極的に使われるべきだと思われわけでありますが、この点で五十四年度は見るべき成果がないと思われわけであります。犬行政のための財源として活用する積極的な考えはあるのかどうか伺いたいと思います。

次に、歳出についてであります。

第二款総務費、市長さんの交際費についてありますが、五十四年度は補正予算でこれを四百五十万円に引き上げました。五十四年度は市制四十周年、あるいは衛生センターの事業に着手するなど大きな事業が控えている、こういうことから百万円の増額が行われたわけでありました。一方議長

さんの交際費を見ますと、百二十万円の予算から百五十万円の予算に増額されたにもかかわらず、その支出の実績を見ますと、五十三年は百十六万一千円、五十四年は百四万三千円とわずかでずがむしろ少なくなっているわけであります。市長と議長は同一に論じられないのはもちろんですが、しかし市制四十周年という大きな行事があったにもかかわらず議長交際費は対前年度比少なくなっていることは示唆する点も多いと考えます。率直に申し上げまして市長交際費はもっと節約すべきだと思います。こういう点から市長交際費の内訳について御説明を願いたいと思うわけであります。

行政事務委託料八百二十五万八千円についてであります。町内会はその自身として自主的な組織であり、しかも任意加入の団体でもあるわけであります。行政事務委託を考える場合にもこの点から出発して考えなければなりません。まず第一点は、館山市民のうち町内会に所属していない世帯について調査したことはあるか。町内会に所属していない世帯には広報は届いていないと思うわけでありますがどうか。ごみの手数料は町内会を手数料納入組合として集めているわけでありますが、この町内会に所属していない世帯などからはどうやって集めているのかお聞きしたいと思います。

地方自治法の二百四十三条では、私人をして公金の徴収を行わしてはならない、許されるのは法律または政令に特別の定めがある場合だけである、こういうことをうたっているわけであります。町内会でごみ手数料を集めるのはこの二百四十三条に抵触すると思うわけでありますが、どのようにお考えであるか。

同じく納税組合の奨励金について、納税組合による市税等の公金の徴収行為について地方自治法二百四十三条に抵触するのではないかと思うわけでありますが、この点について御説明を願いたいと思うわけがあります。

第三款民生費についてであります。敬老祝金として三百九十万円の予算に対し三百五十七千円、八十四万二千円の不用額を出したわけであります。八十歳以上の老人千二百七十一人に祝品を贈ったとのことですが、一人当たり直すと二千四百円相当と大変な節約をしたわけであります。こういう予算はむしろきちんとしてほしいと思うわけであります。かつて五千円あったものが実績で二千四百円、だから名目的にも半分以下になったわけで、または貨幣価値の下落を考えると三分の一程度になったのではないかと考えます。とにかくこれは落ち込んでいるのだからふやさなければならぬと思いますが、どうお考えであるかお聞かせ願いたいと思います。

第一〇款教育費についてであります。那古小学校の備品購入費が五百七十九万円と他の小学校に比べ格段に多いわけでありますが、どのようなものを買ったのか、またそれは他の学校から比べてどういう事情であったのか御説明願いたいと思います。

三中の地震事故について過日説明を受けておるわけでありますが、その後設計上の責任があったのか、あるいは施行上のミスがあったのか。耐震建物というふれこみでつくったにもかかわらずこの責任はどこにあるのか。現在時点ではつきりさせていただきたいと思います。

第二款公債費についてであります。公債費の予算と支出など

は——予算と現実の支出その差のないものと思っておったのであります。千二百万円余の不用額を出したわけであります。これでは予算が大変甘過ぎるんではないかと逆に思いたくなるわけがあります。これだけの不用額の発生は事前に十分察知し得たのではないか。察知し得たとすれば生活環境の整備や福祉の向上など大変に遅れている市民のそれぞれの要求実現に振り向けることができたはずではないか。当初から全くこの問題についての補正はなかったわけですか。当初予算から補正がなかったわけですか。それからこうした見込みについて何らかのチェックができなかったのか、こういう点であります。

次に、認定第二号であります。国保会計の歳入で不納欠損、あるいは収入未済ともに大幅にふえているわけであります。これはどういうことが原因であるかと考えておるのか御説明を願いたいと思うわけであります。

以上、答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

市税収入未済額の分析についてということですが、昭和五十四年度の市税収入未済額は一億五千二百一十一万三千円、和五十四年度の市税収入未済額は一億五千二百一十一万三千円、内訳は固定資産税七千五百六十六万八千円、個人市民税三千二百九十七万七千円、特別土地保有税二千二十三万五千円、都市計画税一千七百六十二万三千円、法人市民税四百五十四万二千円、軽自動車税百二十三万九千円となっております。

このうちで特に金額の多い固定資産税、特別土地保有税、都市計画税でございますが、昭和四十七、八年ごろ土地ブームに乗り

まして土地に投資した観光会社、不動産業者、また好景気の波に乗った法人が、その後の石油ショックによる経済不況の影響を受けて倒産し、滞納になっているケースが多いわけでございます。

特別土地保有税の免除申請について、その件数及び免除額はどうかという御質問でございますが、地方税法の一部を改正する法律、昭和五十三年法律第九号によりまして、恒久的な建物、施設等の用に供する土地にかかわる特別土地保有税について納税義務の免除の制度が創設されました。課税合理化を図るための措置が講ぜられたわけでございます。

本市においては、昭和五十三年度特別土地保有税の免除申請は件数十九、税額三千三十四万一千八百八十円の提出がございましたが、特別土地保有税審議会の調査、審議の結果、免除申請分のうち全額免除と認定されたもの十四件、一部が免除と認定されたものの四件、全額免除否認されたもの一件でございます。免除額二千七百六十六万八千四百六十円、否認された額は二百六十七万二千七百二十円となっております。この審議会の答申を受けまして免除決定したものでございます。

昭和五十四年度における特別土地保有税の免除申請は、件数十五、税額二千四百六十万四千二百二十円の提出がございました。審議会の調査、審議の結果、全額免除と決定されまして、その答申を受けましたので免除を決定したものでございます。

市営住宅使用料の収入未済についてでございますが、減免の対象となるような人につきましては、しかるべき措置を講じてございます。この滞納は市外に退居した者、あるいは生活保護受給前とか、あるいは生活保護打ち切り後の、いわゆるボーダーライン

にいらっしゃる方々があるわけでございます。減免すべき人に対してはしかるべき措置を講じてございますので、低所得者に対する対策としては十分心を配っているつもりでございます。

第一三款の寄附金の内容についてでございますけれども、市道舗装工事等寄附金につきましては該当路線付近の住民から、また奨学資金につきましては一般市民等の善意によるものでございます。また消防関係寄附金につきましては消防施設等整備に際して地元住民からいただいております。那古小学校備品整備、第一中学校屋外プール整備寄附金につきましては東京都からいただいております。沖の島公園整備事業寄附金につきましては関係漁業組合から、また一般寄附金につきましては東京都在住の青木利三郎氏から百万円、八幡不動産から三十万円、船形大塚町内会から三万円の寄附がございましたが、いずれも善意、任意による寄附でございますので、寄附者の意志を尊重しましてそれぞれの事業の財源として充當いたしております。

畜犬登録交付金、注射済証交付事務委託金についてであります。千葉県狂犬病予防等事務執行要綱によりまして畜犬登録一頭当たり七百元、狂犬病予防注射済証交付一頭当たり百円を交付されたものでございます。市町村長は交付された委託料は狂犬病予防業務の目的のため使用することとなっております。市といたしましては、春、秋二回、職員延べ百三十名が市内五十カ所において登録事務と予防注射済証の交付をいたしております。そのほか野犬の捕獲、薬殺等も実施しておりますが、これらの経費の財源として充當いたしましたものでございます。

市長交際費の内訳の御質問でございますが、まず第一には慶弔費として五十七件、三十五万三千元、第二に各種団体の行事に対する助成及び祝い金等といたしまして百十八件、六十八万七千二百九十八円、第三に諸会議の会費及び出席者負担金といたしまして八十八件、九十四万八千三百三十五円、第四に交際費といたしまして二百四十一件、百五十万六千四百八十二円、その他広告、賛助、あるいは謝礼等でございますが、百十三件、七十一万二百円、第六といたしまして衛生センター関係の交際費として十四件、二十九万一千六百九十七円、合計六百三十一件、四百四十九万六千八百十二円となっております。

町内会に加入していない市民がいるのではないかという御質問でございますが、自衛隊隊内居住者、老人ホーム、児童学園等の施設を除いては未加入者はいないと思われませんが、もしあるとすれば町内会等に加わっていただくようにお願いをいたしたいと思っております。

納税組合の奨励金でございますが、この納税組合制度は法令に違反したものではありませんと確信いたしております。

それから、ごみあるいは尿の手数料の集金の問題がございましたが、これは町内会にお願いをいたしているものではなくて、町内会単位に納入組合をつくっていただいて、そしてたまたま組合長が町内会長である、そういう形になっているわけでございます。そういう意味で町内会の仕事ではございません。

民生費の敬老祝金についてでございますが、八十歳以上の老人に對しまして敬意を表するための、祝意を表するための祝金でございますまして、その趣旨を踏まえまして実用的な品物を選択するよ

うに努めているわけでございます。なお、条例上五千円以内となっておりまして、実質的にそれに近づけるよう配慮をいたしているわけでございます。

学校教材について、特に那古小学校の需用費が多いという御指摘でございます。これは東京都から那古小学校に対する寄附があったからでございます。

三中の地震事故についてでございますが、この件につきましては今議会中に全員協議会をお願いいたしまして、中間報告を申し上げるつもりでございましたが、たまたま神田議員より御質問がございましたので、やや詳細に御説明をいたしたいと存じます。

六月二十九日伊豆沖地震によって第三中学校校舎の一部に受けました被害の防止対策について、設計にあたりました近藤建築設計事務所と施工の鹿島建設株式会社から報告書が八月八日提出されました。

その主な内容を申し上げますと、第一点といたしまして、ALC間仕切壁——固定間仕切壁でございますが、そのプラスチック塗り仕上に亀裂が発生したのですが、原因として亀裂はすべて目地部に発生しており、間仕切版自体は構造体の動きに追従しておりますが、壁面に目地を出さない仕上りであったためプラスチックを全面に塗り仕上りを行ったので、今回の地震によって応力の集中した部分の目地仕上に亀裂が発生したものであります。再間仕切版本体には異常は認められなかったわけでございます。再発防止対策として、亀裂発生部分をVカットし目地をつくり、その部分にバックアップ材を挿入の上、アクリル系シーリング仕上げを行いまして、弾力性のあるものを詰めてクッションの働きを

するようにしたわけでございます。

天井部分につきましては、三階普通教室のALC版間仕切壁との取合部分と廊下ALC版間仕切壁出隅部分の天井岩綿吸音板の一部が落下いたしましたわけでございます。いずれも現場加工の短尺の部分であり、中央部分の天井、照明器具については異常は認められませんでした。天井岩綿吸音板落下の原因は、ALC版壁分の天井ランナー取り付けアンカーブラグの保持力の不足によるものと思われるものでございます。防止対策としては、天井周辺部——現場加工短尺もの場合でございますが、全般的に補強を行い、特にALC版壁廻り等を重点的に処置をいたすわけでございます。天井板をワイヤーで吊ることと切り張りをすること。スチールバーションとシステム天井との取り合い部分を上階より振り止め補強することにより落下防止、風等で浮き上り防止ができるかと報告されているわけであります。

なお、構造、外周壁、屋根、内装についても見直しを行いました。また、異常は認められないという報告がなされております。

以上の補修を八月二十六日まで完了いたしました。

また、提出された地震被害調査並びに対策報告書に基づき、市自体として原因、防止対策について、県教育庁を通じて文部省に調査依頼しました。その結果はまだ出ておりませんので、結果がわかり次第報告をいたします。

次に、公債費中一時借入金の子の不用額についての御質問でございますが、一時借入金は、年度内に収入できる見込みはあるがその収入時期が遅れる等のため、一時的に支払いの資金が不足する場合に、一時資金を借り入れて支払いに充てるための借入金

であります。例年でございましてと工事請負費等の支払いに充てるための地方債の借入れは四月から五月の出納整理期間になり、一方支出はほとんどが三月末から四月の初めにかけて支払われるために、地方債が収入されるまでの間、三月から五月にかけて支払い資金が不足いたしますので、この間一時借入をするのが通例でございますが、五十四年度におきましては再三の公定歩合の引き上げに伴って地方債の利率の引き上げがございました、さらに五十五年四月から再引き上げがあるという情報がございました、県の指導もございまして、そのほとんどを三月中に借入れを行ったため資金繰りが楽になりました、一時借入金が少額で済んだためでございます。

次に、国保税の収入未済の分析についてでございますが、昭和五十四年度の国民健康保険税の収入未済額は八千五百七十八千円となっておりますが、五十四年度分四千七百七十二千円、五十三年度以前の分四千三百四十五万六千円でございます。滞納者の人員は約千百人でございます。このうち市外転出者は約二百五十人でございます。

国民健康保険の加入者は低所得者が比較的多く、国民健康保険の加入脱退、これに伴う月割り課税の問題等もあり、県下各市でその徴収に苦慮しているところであります。昭和五十四年度の徴収率を見ますと、本市は八八・五％で県下二十六市中八位になっております。

今後の徴収にあたりましては、国民健康保険が相互共済ということを理解していただきながら、納税の意識向上を図り、未納の解消に努めてまいりたいと思っております。

以上、答弁を終わります。

○総務部長（石田雄一君） 補足説明を申し上げます。

特別土地保有税の減免の件でございますが、館山市市税条例の百三十一条の二に規定してございます。

○一番（神田守隆君） 歳入の収入未済について、法人の倒産というよりなことが大きな原因であったという、そのための影響だというお話でありますけれども、そういう点からすると、それだけではちょっと割り切れないという点もあるんで、さらに今後詳しく内容を分析をしていただきたいと思うわけであります。

昨年に比べてもふえていっているわけでありますから、むしろ特別土地保有税を見ますと、前年度に比べてよくなっている。これは法人ですね。そういうこともあるわけで、私はむしろ危惧を感じるのには、個人の市税の納入が悪くなっているのではないかとというように、やはりいまの税が高くなっている問題点、こういったことが大きな問題になっているのではないかと感じるんで、そこらについての詳しい論議をまた別な場でお願ひしたいと思います。

それから、百三十一条の云々という、特別土地保有税ですね。

これは地方税法の六百三条にいう納税義務の免除についてではないんですか。特別土地保有税の審議会を開いて云々というのが六百三条の二ですから、それに基づく減免についてはたしかないはずで、百三十一条というのは、いま言ったのは違ひませんか。

それから、使用料及び手数料について、市営住宅でボーダーラインの方が、生活保護世帯であった人、それから生活保護世帯からようやく抜けたとか、あるいは生活保護世帯に入りそうであると

か、そういうボーダーラインの方が滞納の主な方だと、これはゆゆしき問題だろうと思うわけですが、私は市営住宅の条例を見ますとボーダーラインの方、これは減免の対象になるのではないかと免除ではなくて減額という対象になるはずだろうと思うんですけども、そういう点での指導はされているのか。

それから、寄附金についてであります。私は市道の舗装工事寄附金、あるいは消防関係の寄附金、漁業整備事業の寄附金、この三つについてはやはり割り当てるべき寄附金——寄附金というのは任意でなければならぬということですから、当然なんですけれども、どうもそういう点については疑義を感じるもので、先ほどの特別土地保有税なんかの財源があるわけですから、その他のいろいろな財源、そういったものを積極的に活用して、市道舗装の工事等の寄附金については集めなくても道路ができるというふうに早く移行すべきだ。消防関係についても市の方の考え方——漸次消防関係でも少なくなってきたというふうなお話も聞いておりますけれども、御努力をお願いしたいというふうにお聞きしております。これは税の公平の原則からいって当然のことだというふうに思うわけでありまして、この点について市長さんのお考えではどういうふうに、あくまでも寄附金というふうにおっしゃるならば議論はすれ違ひわけでありまして、以上お伺ひしたいと思ひます。

それから、畜犬登録の県の支出金の問題ですが、大幅にふえたそれは実際には予防注射するときの人的費用に消えちゃったというお話ですけども、犬を飼っている立場から見れば、非常に高く

なった犬の注射あるいは狂犬病の鑑札をもらう、相変わず費用が高くなっている。それが目に見えて具体的に、なるほどそういうことに使われるのかという形で市民のほうに返っていかなければならぬのが本来の性格のものだろうと思うわけです。そういう点からいまだの答弁では不十分ではないか。今後どういうお考えを持っているのか。あくまでもそういう考え方で、特に変える考えはないのか。

それから、歳出について、市長交際費についての内訳の御説明がありました。その説明は説明としてはわかりました。議長交際費に比しまして市長さんの交際費がもっと節約の余地があるんではなからうか。そういう点で御答弁なかったわけですが、一生懸命今後節約をしますというような答弁だけだろうと思えますので、これ以上は質問いたしません。

行政事務委託料でありますけれども、町内会に所属していない世帯はないと思う、「ないと思う」というのが実際だと思えます。いろんな世帯がありまして、私もそういう例を二、三知っているものですから、全市的にどうかということでは危惧を感じるんですけれども……。

ひとつ具体的に申し上げますと、たとえば館山によくあるケースとしては別荘がございますね、ああいうところのごみの手数料、夏の期間とか一定の時期しか使わない。こういう方はおそらく町内会に入っていないと思うんですけれども、こういう方はどういうふうに収納しているのか。

それと、地方自治法の二百四十三条に納税組合あるいはごみ手数料の納入組合、こうしたところの徴収行為、これは抵触するん

ではないか。「法に違反していないと確信する」、確信されては困るんですけれども、ひとつ検討していただきたいと思えます。

地方自治法二百四十三条にははっきりと法令あるいは政令で定められた特別の場合を除く以外は私人は公金の徴収行為ができないことをうたっているわけですから、どういうふうな理由から違反しないのか。もっと納得のいく説明をお願いしたいと思えます。

それから、敬老祝金については質疑はしません。

それから、那古小学校の五百七十九万円、これは受け入れはわかりました。東京都からの寄附が大きな比重を占めた。具体的にどんなことに使ったのか、それについてお話をしていただきたいと思えます。

三中の問題についてもわかりました。

それから、公債費についてであります。相当不用額が出るというのは、いまだのお話を聞きますと、大体三月から五月にかけての資金不足に対処するためにというふうなお話で、三月に県からの指導で借入れをふやしたんだということで、不用になったというお話でありますけれども、そういうようなことでおおむね了解をするわけですが、いち早く察知をすればこの財源がもっと有効に利用できたのではないかと思うわけで、これは県との関係もありましようから、これ以上の質問はいたしませんけれども、御努力をお願いしたいと思うわけであります。

以上、御答弁をお願いしたいと思えます。

○総務部長（石田雄一君） 先ほどの補足説明の訂正をお願いしたいと思えますけれども、実は減免という趣旨においてお答えしたものですから……。地方税法の六百三条の云々というような関係

で市税条例がそれに関して規定してないんじゃないかということだったと思いますが、これにつきましては地方税法六百三條の二に規定してございますので、この関係で特に市税条例で規定する必要のないものというふうに解釈いただきたいと思ひます。

なお、市町村長が認定を行う場合の審議の場といたしまして、特別土地保有税審議会というものを市の附屬機關設置条例の中にうたい込んであります。

○経済部長（山田俊康君） 市営住宅の使用料の徴収にあたってボーダーラインの人を指導しているかどうかということでございますが、こちらで把握いたしました時点ではそれぞれこういうものがあるということで指導はしております。

○総務部長（石田雄一君） 納税組合の關係で、特に組合長が税の徴収をしているという關係でございすけれども、地方自治法第二百四十三條の關係でございまして、「私人の公金取扱の制限」というのがございますが、あくまでも納税貯蓄組合につきましては――従前からいろいろこの議會で質問が出ておるようでございすますが、指定金融機關または代理機關に收納されました初めて公金扱いをするという性格のものでございす。

○教育長（安田豊作君） 那古小学校の備品購入について答弁申し上げます。

御質問の内容としては、特別教室、特に調理室、家庭科室の机それと工作台、音楽室のデスクオルガンというところでございす。これらについてはよその学校とどうだということでございますが、よその学校では一昨年から三年計画で特別教室のこういう機械、道具をそろえるという計画で、本年度終りになっておりま

す。これが那古の場合は一年早く寄附があったからできたということと、内容的にはデスクオルガン二十三台が全部そろったということが寄附のために有利と申しますか、になっている。こういうことでございす。

○一番（神田守隆君） 地方税法の中で賦課徴収についてはその内容を地方公共団体において定めなければならぬというふうにうたっているわけです。それとの關係で、地方税法で決めているからうたわなくてもいいんだ、免除のことについて。ちょっとそれは納得できませんけれども、以上で質疑を打ち切ります。

○議長（五十嵐 昇君） 次、二〇番議員石井武敏君。御登壇願ひます。

（二〇番議員石井武敏君登壇）

○二〇番（石井武敏君） 決算につきまして御質問申し上げます。

すでに質問のあらましは通告してございますので、具体的な答弁を明確にお願いしたいと思ひますのでございす。

まず、第一点は、一四ページの五目教育費の中の四節でございすますが、この各種学校の補助金についてでございます。補助金につきましては国の補助基準額というものがあつてと思ひます。その場合法令上は二分の一とか、三分の二とかの補助、あるいは定額補助というような制度があるわけでございまして、率とか定額に幻惑されがちであると思ひます。つまり私が言わんとするところは、実際の工事費でいきますと、一平方メートル当たりの補助金が二分の一とか、三分の一とかという、世間一般論からすればたくさん交付されるように感じますが、そのときの相場や時価の二分の一や三分の一ではなくて、国で定めた補助基準額の二分の一で

あるということでございますから、つまり学校の建築単価が実際の相場と文部省の基準としてゐるものところと金額的に開きがあるわけでありますから、結局それは地元の自治体がそのための負担をかぶるわけでありますから、そのへんの基本的な考え方をお尋ねしたいわけでございます。

二番目、一六ページ二項の二節防災対策費、三節の交通安全対策費についてでございます。この補助金は天災とか交通災害におきましては人命を尊重するという角度から、それぞれ効果を奏していると思います。私はこの種の補助金に關しまして基本的に県や国のこうした補助金は大いに活用していったほうがいいというふうに思いますので、それでこの補助金を拠出する県の基準、どのような基準でこれが拠出されていくのか、算出基準の説明を求めるものであります。

三点目は、三三ページ一九節の各種負担金、分担金についてでございます。市の歳出予算の特色の一つには負担金が多いということがございます。この負担金には法令等で義務的なものと、また協議会等の任意負担金があると思うんです。これらは相当実績を上げている会もありますし、また実績の上げていないものもあるわけであります。そのおの会の会の運営に問題があるうと思われませんが、この負担金の中で義務的なものと任意的なものを分けて御説明を求めます。

四点目でございますが、五〇ページ民生費の二〇節でございます。これは不用額がここに計上されております。この不用額は予算計上の際の見込みが立たなかったのか、あるいは節約をしたのかのいずれかであろうと思いますが、この予算を節約してもどれ

ほどの効果があらわれてきたかというところに疑問を持つわけでありますので質問申し上げるわけでございます。不用額を出す前にもう一度見直す点があったのではないかという感じがしますので、この不用額の理由をお尋ねするわけでございます。

次、五点目でございますが、労働費でございます。六四ページの貸付金でございますが、勤労者の厚生福利対策ということで労働金庫に委託をして、勤労者の経済的な安定を図ったというように説明がなされておりますが、これはどのような形で実際は活用されておるものなのか。具体的な説明を求めるわけであります。

次に、六点目は放送センター費でございますが、八七ページでございます。一三節の委託料でございます。これはおのどのかに委託をしているかを説明を求めるわけでありますが、私は放送センターの運用、活用、そしてその教育効果というものに対して今後検討を加えていくべき多くの問題をはらんでいるように思うわけであります。と申しますのは、教育放送センターのそもそもの発足と現在の運用とかなり目的において違いが出てきているわけでございます。その点でどこに委託をしているか説明を求めるものであります。

最後に七点目でございますが、八八ページ小学校校費の中の需用費の中の消耗品費でございます。学校の消耗品の扱い方について質問します。私は各学校ごとのこうした消耗品の購入を改めて、全学校の年間における消耗品の購入計画を立てて、教育委員会が消耗品の購入をすることによって、経費の節減につながるのではないかというふうに考えを持っておりますので質問するわけであります。この消耗品がどのような購入経路で購入されて、購入計

画に基づいて購入が行われたのかを質問する次第でございます。
以上七点、簡明な御答弁をお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 学校建設の場合の補助金の超過負担についての御質問でございますが、全国の鉄筋コンクリートづくりの平方メートル当たりの実施単価と補助単価の実態は、昭和五十年度は実施単価九万六千二百五十一円に対して補助単価は八万九千七百七十円で六千四百八十一円の超過負担でございましたが、昭和五十四年度は実施単価十一万一千三百三十円に対して補助単価は十一万百十一円であり千二百十九円の超過負担となっているわけでございます。超過負担の解消はいま一步というところでございます。

当市の昭和五十四年度の文部補助事業も、実施単価の約九九%の補助単価がついております。

今後は、公立学校施設整備期成会などを通して超過負担の解消に鋭意努力していきたいと思っております。

次に、防災対策費の補助金、交通安全対策費補助金等の基準についての御質問でございましたが、防災対策費補助金の基準は耐震性井戸貯水装置設置事業補助が三百九十九万九千円で、補助率は三分の一でございます。事業費の限度額は一千二百万円でございます。これに対して実際の事業費は二千三百七十五万七千円かかっております。

災害用浄水機整備事業補助金百三十五万円でございますが、これは補助率は三分の一でございます。事業費の限度額は一台百三十五万円でございました。当初事業費は三台で四百五十万円とな

っているわけでございます。

交通安全対策費補助金の基準は、交通安全地域活動推進事業補助金でございます。これは十万円でございますが、補助率は二分の一でございます。事業費は二十万三千円でございました。実事業費も同額でございます。

二款一項一目一九節の負担金の中に義務的なものと協議会的な任意負担金があると思うがという御質問でございますが、この義務的なものと協議会的な、いわゆる任意的なものととの区別の基準といたしましては、いろいろございまして、その組織の設置が法令に基づくものを義務的なものとした場合、地方自治法の規定により設置された一部事務組合並びに共同設置の委員会の負担金がこれに該当することとなりまして、三三ページから三四ページにかけての負担金のうちで義務的な負担金に該当するのは、千葉縣市町村公平委員会負担金、千葉縣市町村総合事務組合負担金、千葉県自治センター運営費負担金、千葉県公務研修センター建設費負担金の四つでございます。その他のものについては任意的な負担でございます。

次に、民生費の予算書五〇ページ二〇節扶助費の不用額の理由はどういうことかということでございますが、これは特に節約をいたしたというものではございません。もし足りなければいつでも補正をしなければならない性質のものでございますが、たまたまこれだけの不用額が出たということでございます。この主なものは心身障害者あるいは障害児医療給付扶助費の七十万四千円でございます。これは該当者の医療給付でございますので、医療単価等医療内容の変化によって予定額を下回ったものでござい

ます。

勤労者厚生対策預託金の貸し付け活用はどうかということですが、勤労者厚生対策預託金は勤労者の生活資金の拡充、厚生面の促進のため千葉県労働金庫館山支店に預託をいたしました。昭和五十四年度の活用状況は、生活資金について四百五十件、三億一千五百十六万円、住宅貸付については十九件、九千五百二十万円、合計四百六十九件、四億一千三十六万円の貸し出しがなされておりました。幅広く利用されているものと考えております。

放送センターの委託料でございますけれども、まず機械点検整備委託料につきましては、館山市北条一七八番地、春名重義に学校教育、社会教育、市民向け貸し出し用の十六ミリ映写機、八ミリ映写機、スライド映写機、録音機、録画機、交通信号機、オートパーヘッドプロジェクター、教材作成機の整備点検を委託いたしました。

次に、教材作成研究委託料については、館山小学校吉見貞男、神余小学校渡辺一義に小学校低中学年社会科、理科に使用する、地域に即したスライド教材、TP教材、録画教材制作研究を委託をいたしました。

業務委託料については、館山市北条一七八五番地 小宮美喜夫に十六ミリ映画として教材映画十分もの二本分、文化財記録映画二十十分もの一本分、公民館及びコミュニティ広報映画二十十分もの二本分、市制四十周年記念映画三十十分もの一本分の撮影技術業務とタイトル百三十五枚のイラスト技術業務を委託をいたしました。し尿浄化槽維持管理委託料については、館山市北条一一四五の一番地 館山市環境保全公社に浄化槽の点検を委託をいたしました。

た。

小学校消耗品費の購入計画と実施についての御質問でございますが、各学校ごと予算に応じまして年間計画を立て、計画に基づいて購入を実施いたしております。各学校共通して使用頻度の高い消耗品については、市内業者と単価契約をして購入をしております。すなわち用紙類、文房具類、消耗器材類等でございます。各学校で緊急を要するもの――一品単価で三千円未満、一葉要求票一万円未満のものでございますが、こうした緊急を要するものについては学校長に権限委譲し、それぞれ購入をいたしております。

以上、答弁を終わります。

〇二〇番（石井武敏君） あらあら了解をしましたけれども、まず第一点の超過負担についてでございますが、これは御説明のように年々超過負担率というものが少なくなってきたということでございます。いわゆる国の基準額というのは毎年改定されているものです。

それから、第二点目の防災対策費に関しまして、県の補助で該当になる防災対策施設というのと、市で取り上げなかったもので何かありますか。

それから、各種の負担金についてでございますが、これらの負担金は任意のものもあるし義務的なものもあるという御説明でございます。この分担金や負担金の徴収につきましては、いわゆる金額の算定の方法とか基準の方法とか基礎的なものがあると思いますが、そういう点こまかく聞きしていきますと大変時間がかかりますので、この際割愛をしたいと思います、あくまでも金

金を受領するわけでありますから、地方自治体から金を集めるわけですから、一応条例を制定して徴収されていると思いますが、徴収条例をつくって、そしてその条例に基づいて徴収がなされているかどうか。この点だけ御質問いたします。

○教育長（安田豊作君） 学校建築の基準単価は毎年変わるものか、毎年変わっております。年々上がっております。

○民生部長（鈴木 力君） 防災対策に関する補助金でございますけれども、その他の該当する事業といたしましては、震災等緊急広報無線設置事業補助金、あるいはまた消防関係、消火作業を行います消防ポンプ自動車、あるいは可搬用動力ポンプ、こういったものも対象になるわけでございます。

○市長公室長（汐崎政光君） 負担金の件でございますけれども、義務的なものは先ほど市長が申しましたように法令に基づいて設置されている団体に支出しているわけでございますが、任意的なものにありましてはそれぞれの組織の規約等によりましてその負担金の算定基礎が明示されております。

○二〇番（石井武敏君） 労働金庫に委託をいたしますと——生活資金についても一点だけ重ねて質問いたします。利息は幾らで貸し出しをされているんでしょうか。

それから、学校の消耗品費につきまして御質問いたします。現在学校の消耗品費について、PTAが負担をしている消耗品がありますかどうか御質問いたします。

また、すべての備品に備品台帳があると思いますが、きちんと備品台帳というものはできているのでしょうか。

それから、教育委員会は学校の備品について、教育の機会均等

という立場から、各学校の格差がないように配慮されていると思いますが、この点はどういうふうに配慮されていますか。

○経済部長（山田俊康君） 労働金庫の貸し付けの利率でございますが、現在やっているものにつきましては、住宅資金につきましては八・八八％から一一・二六％、その間四段階に分かれております。生活資金につきましては一一・〇四％から、一一・九六％、これも同じように四段階に分かれております。それぞれ所属する団体等で財形貯蓄とか預金とか積立金等の実績によってそれぞれこまかく分けられて金利が定められております。

○教育長（安田豊作君） 消耗品費についてですが、消耗品についての台帳があるかということでございますが、備品は全部台帳があります。学校と委員会にあります。その間のチェックはしておりますが、ここでのいう消耗品というのは三千円以下の品というのが市の財務規則にあり、三千円以下のものでも備品になるものがあります。これは備品台帳に登録しておりますけれども、そうならない紙のようなものは登録しておりません。

それから、台帳がある以上、備品についての各学校の平均化、ことに教材購入については充足率のパーセントを見ながら平均化を図っていく、こういうことで努力しております。

○二〇番（石井武敏君） ただいま御答弁いただいたんですけれども、勤労者の厚生福利対策という趣旨からすると高い金利に思えるんですが、その点どういうふうにお考えになりますか。

○経済部長（山田俊康君） 実際の金利状況から言いますと、勤労者にとりましては労働金庫ということで安易に、借り易い点はあろうかと思えますけれども、特に銀行等で借りようとする保証

人がどうの、何がどうのと大分めんどうなこともあります。それに比べてとにかく便利に使われているというのが実情であろうかというふうに理解しております。

○二〇番（石井武敏君） 私が明確に聞いているわけですから、明確にお答えいただければ結構です。高いと思うとか、安いと思うというふうに答えていただければ結構でございます。

○経済部長（山田俊康君） 私自身としては高いと考えております。

○二〇番（石井武敏君） 質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で二〇番議員の質疑を終わります。

以上をもちまして通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員諸君で何か御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております昭和五十四年度各会計決算につきましては、十人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにしたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。

ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第四条第一項の規定により、

一番議員	神田 守隆君	二番議員	石井 謀君
五番議員	福原 勤君	九番議員	松下 正己君
一三番議員	近藤 好雄君	一六番議員	押元 稔君
一八番議員	流山源次郎君	二六番議員	伊賀 多朗君
二七番議員	石井 正君	二九番議員	安西 益男君

以上十人を指名したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よってただいま指名いたしました十人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員の方々は、のちほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承を願います。

延 会 午後四時四十三分延会

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明九月十九日から九月二十五日まで委員会審査のため休会、次会は九月二十六日午前十時開会といたします。

その議事は議案第五十三号乃至議案第五十八号及び認定第一号

乃至認定第七号に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは九月二十六日午前九時まででありますので申し添えます。

○本日の会議に付した事件

一、議案第五十三号乃至議案第五十八号

一、認定第一号乃至認定第七号

一、決算審査特別委員会の設置、付託、委員の選任